

2026年5月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社アクセルスペースホールディングス

東京証券取引所 グロース市場(証券コード:402A)

2026年1月14日

ビジョン・ミッション

Space within Your Reach

～宇宙を普通の場所に～

私たちは小型衛星技術のパイオニアとして、宇宙ビジネスの先頭に立ち続けることで、従来の宇宙利用の常識を打ち破り、地球上のあらゆる人々が当たり前のように宇宙を使う社会を創ります。

目次

- I. 事業概要および事業進捗
 - II. 2026年5月期 第2四半期 業績概要
 - III. 2026年5月期 業績予想
 - IV. 事業計画
- Appendix

事業概要および事業進捗

注： 本資料では特に明記されていない限り、以下の通りとする。

「第2四半期」「Q2」： 毎年6月1日から11月30日までの期間を指す。

「通期」： 毎年6月1日から翌年5月31日までの12か月間を指す。

事業計画の為替前提： 1米ドル=150円、1ユーロ=160円。

増減率は円単位で算出しているため、表示金額(百万円単位)を基に計算した場合と差異が生じる場合がある。

2026年5月期第2四半期 ハイライト

業績

- ・ 受注残高は前年同期比で27.9%増加
- ・ 売上高は564百万円で前年同期比で減収。政府系案件の製造計画の影響によるもの
- ・ 補助金487百万円を計上。総収入は1,051百万円

研究開発・製造

- ・ 2027年5月期打上げ予定の「GRUS-3」の製造・開発は順調に進捗
- ・ 2028年5月期打上げ予定の高分解能衛星の開発が進捗

事業^{*1}

- ・ 防衛省「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」を落札
- ・ Pale Blue社と軌道上実証サービスの提供についての契約を締結

財務

- ・ 現預金残高は10,922百万円
- ・ 上場に伴うOA分の第三者割当増資806百万円
- ・ 「GRUS-3」製造進捗に伴い、第2四半期末までに「建設仮勘定」1,049百万円を計上

主要な指標

総収入

1,051 百万円

受注残高

10,492 百万円

EBITDA^{*2}

△2,044 百万円

現預金

10,922 百万円

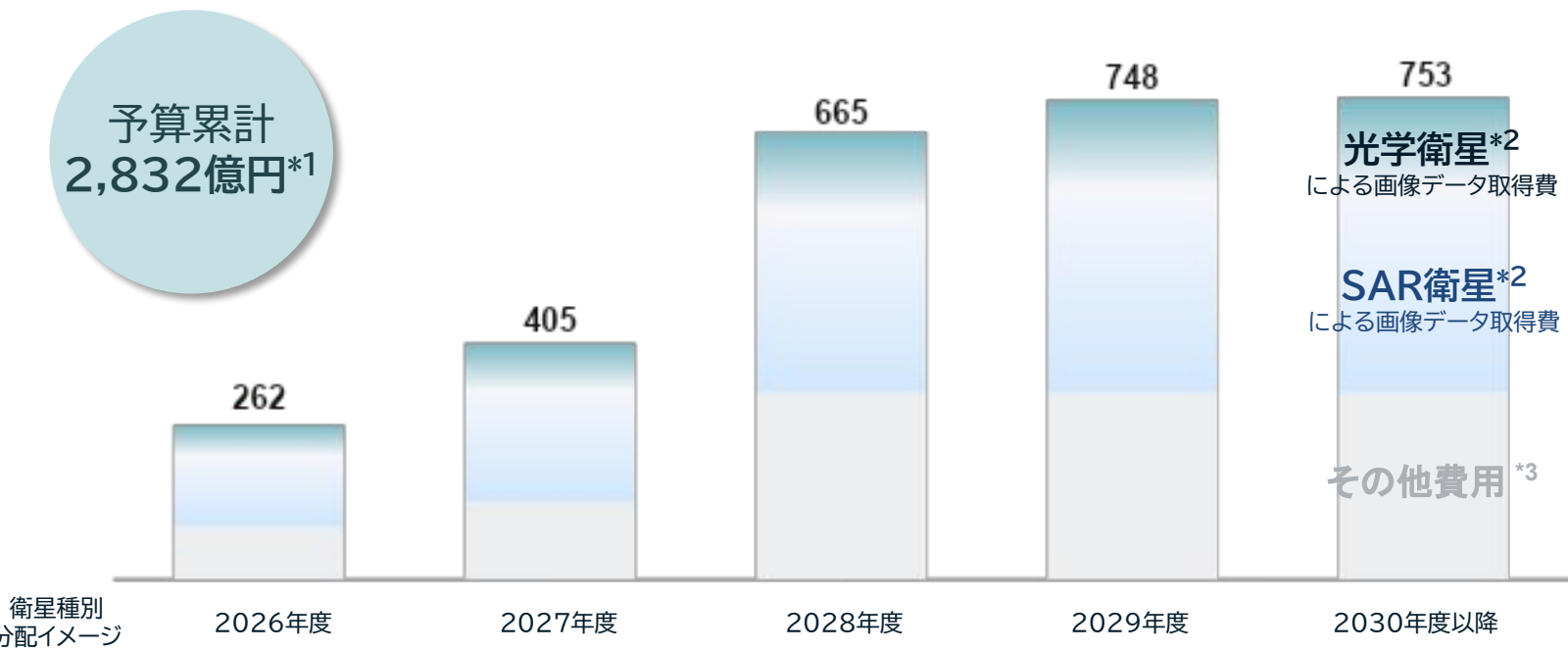
*1: 2026年5月期第2四半期末(2025年11月末日)以降、発表時点(2026年1月14日)までに公表した内容を含みます。

*2: EBITDAは税引前利益、支払利息、減価償却費、無形資産償却費により算出しています。

2026年5月期第2四半期以降の案件ハイライト

6社とともに「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」を落札。
当社グループは、**唯一の光学画像提供事業者として、本事業に参画。**

「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」に係る防衛省予算*1



発注者	防衛省
事業名	衛星コンステレーションの整備・運営等事業
入札方式	一般競争入札(総合評価落札方式)
事業内容	・画像データの取得に関する業務 ・専用地上施設の運用等に関する業務 ・全般的な管理に必要な業務
事業期間	事業契約締結日から2031年3月31日 (約5年間)
落札者	・三菱電機株式会社 ・スカパーJSAT株式会社 ・三井物産株式会社 ・株式会社Synspective ・株式会社QPS研究所 ・株式会社アクセルスペース ・三井物産エアロスペース株式会社

*1: 各年度の数値は、「防衛力抜本的強化の進捗と予算」(令和7年4月)において開示されている累計予算2,832億円をベースに、「衛星コンステレーションの整備・運営等事業サービス対価の算定及び支払方法(案)」(令和7年4月)にて開示されている各年度の予算配分比率を乗じて算出。また、「画像データ取得費」と「その他費用」の内訳は公表されておらず、資料にて掲載されている「支払いイメージ図」を参考に当社作成。

*2: 「画像データ取得費」の内、光学衛星とSAR衛星の割合は公表されておらず、あくまでもイメージ図であり、実際の分配金額とは大きく異なる可能性があります。

*3: 「その他費用」の内訳には、専用地上局運用・維持管理費、専用地上局整備費、統合運用システム等運用・維持管理費、統合運用システム等整備費、全般管理業務費が含まれます。

当社の事業

創業以来培ってきた小型衛星開発・製造の技術を核に、2つの事業を展開



(サービス開始:2022年～)

顧客向け小型衛星プロジェクトの
開発・製造・打上げ・運用を提供

顧客へのサービス提供範囲

開発

製造

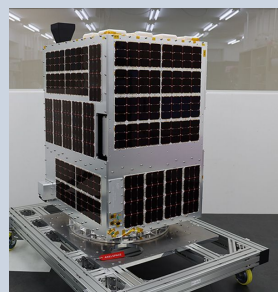
打上げ

ミッション
(地球観測等)

運用

データ取得
・分析

小型衛星
開発・製造技術



(サービス開始:2019年～)

自社運用衛星にて撮影した画像データの販売及び
画像データを使ったサービスを提供

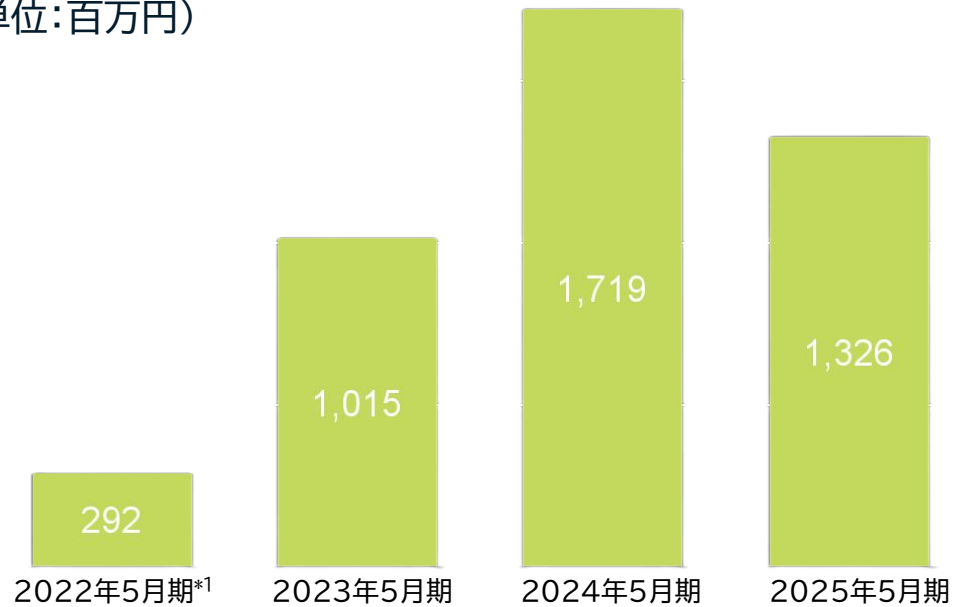
注: 画像は各工程のイメージを示しております。

AxelLiner事業の実績

顧客向け小型衛星プロジェクトの開発・製造・打上げ・運用を提供。現在の顧客は国内の政府系機関が中心

売上高 (通期)

(単位:百万円)

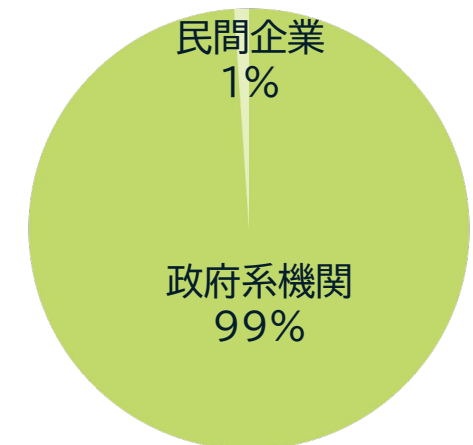


AxelLiner事業の主要顧客 (2026年5月期第2四半期累計)

地域別



顧客別



*1: 2022年5月期については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定又はそれに準じた監査証明を受けておりません。

出所: 各社HP、公表資料。なお、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。

AxelLiner事業の事業進捗:主要プロジェクト

現在の主要プロジェクトであるKプログラムを中心に売上高を計上

NEDO/経済安全保障重要技術育成プログラム(Kプログラム)

案件概要	光通信等の衛星コンステレーション基盤技術の開発・実証
プロジェクト規模	最大600億円*1
実施先	アクセルスペース、Space Compass、NICT、NEC
目的	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の宇宙通信インフラ構築の衛星光通信ネットワーク技術を世界に先駆けて確立 世界市場で技術優位性をもち、ルール形成等でも主導的立場に立つ
当社の役割	<ul style="list-style-type: none"> 小型LEO衛星、地球観測衛星、光通信ネットワーク制御システムの開発

【プロジェクト概要】

- 大容量・低遅延でのデータ通信・データ処理のサービスの提供を可能にする技術の研究開発を目指すプロジェクト
(案件詳細及びプロジェクトイメージは10～11ページ参照)
- 2026年5月期Q2の連結売上高の82.0%を占める
- 売上は工事進行基準での計上(計上イメージは32ページ参照)

【受注残】(2026年5月期Q2期末時点) 9,060百万円

- NEDOの会計期間2031年度までのプロジェクト期間の内、2029年3月までの役務提供契約にかかる受注残

NEDO/超小型衛星コンステレーション技術開発実証事業

案件概要	衛星コンステレーションのワンストップサービス実現に向けた超小型衛星実証事業
プロジェクト規模	上限52.8億円*1
実施先	アクセルスペース、Synspective
目的	<ul style="list-style-type: none"> 国内での超小型衛星コンステレーション構築能力の確保
当社の役割	<ul style="list-style-type: none"> 汎用衛星バス開発、100kg級衛星の宇宙実証

【プロジェクト概要】

- 小型衛星の量産化を見据えた設計の汎用化、製造の効率化、運用の自立化、自動化についての実証に対する補助事業
- 2026年5月期Q2において、2024年度の検査完了に伴い、487百万円を補助金収入として営業外収益に計上

【受注残】(2026年5月期Q2期末時点) 1,296百万円

- 毎年度補助金の上限が通知される方式で、2026年度まで交付が決定
- 本プロジェクトによる収入は、営業外収益(補助金による収入)として計上。金額は、本プロジェクトの補助対象経費の額に対して補助率が3分の2

*1: プロジェクト全体の規模を表しており、当社受注額ではありません。

出所: 各社HP、公表資料。なお、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。

Kプログラムにより目指す技術開発

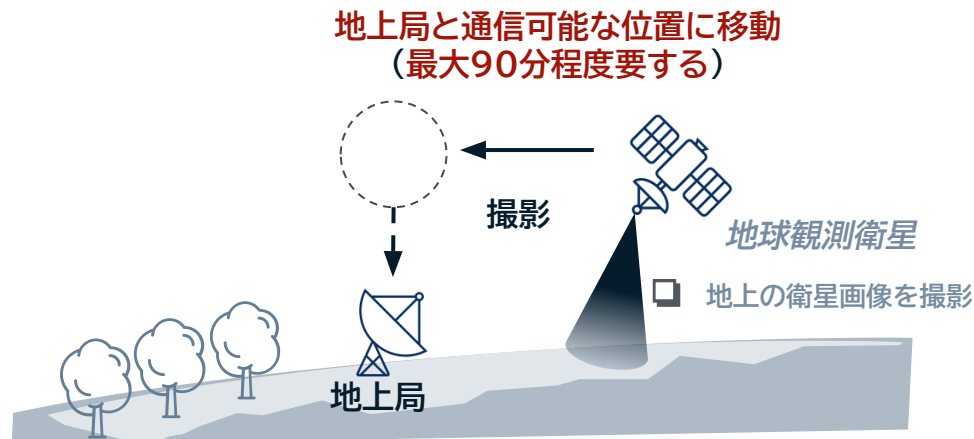
光通信技術を獲得することで、より少ない機数でデータ伝送のタイムラグを生じさせない衛星コンステレーションの運用の実現を目指す

背景

衛星技術の進展により、安価で高品質な衛星画像の提供が実現。需要増大に伴う膨大な撮影データの授受が必須

従来の地球観測

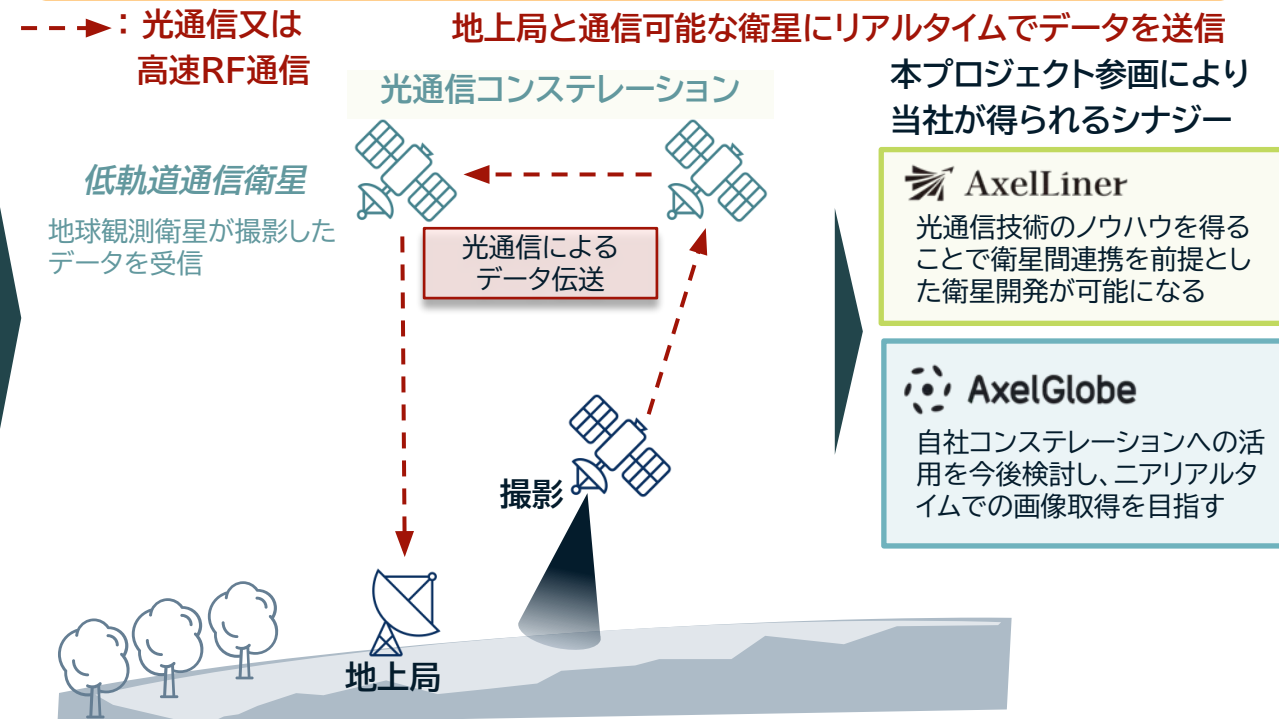
- : 衛星の移動
- : 無線通信



目的

エッジコンピューティング技術^{*1}や光通信で衛星同士を協調運用すること(光通信コンステレーション)により、ニアリアルタイム地球観測を実現

ニアリアルタイム地球観測



AxelLiner
光通信技術のノウハウを得ることで衛星間連携を前提とした衛星開発が可能になる

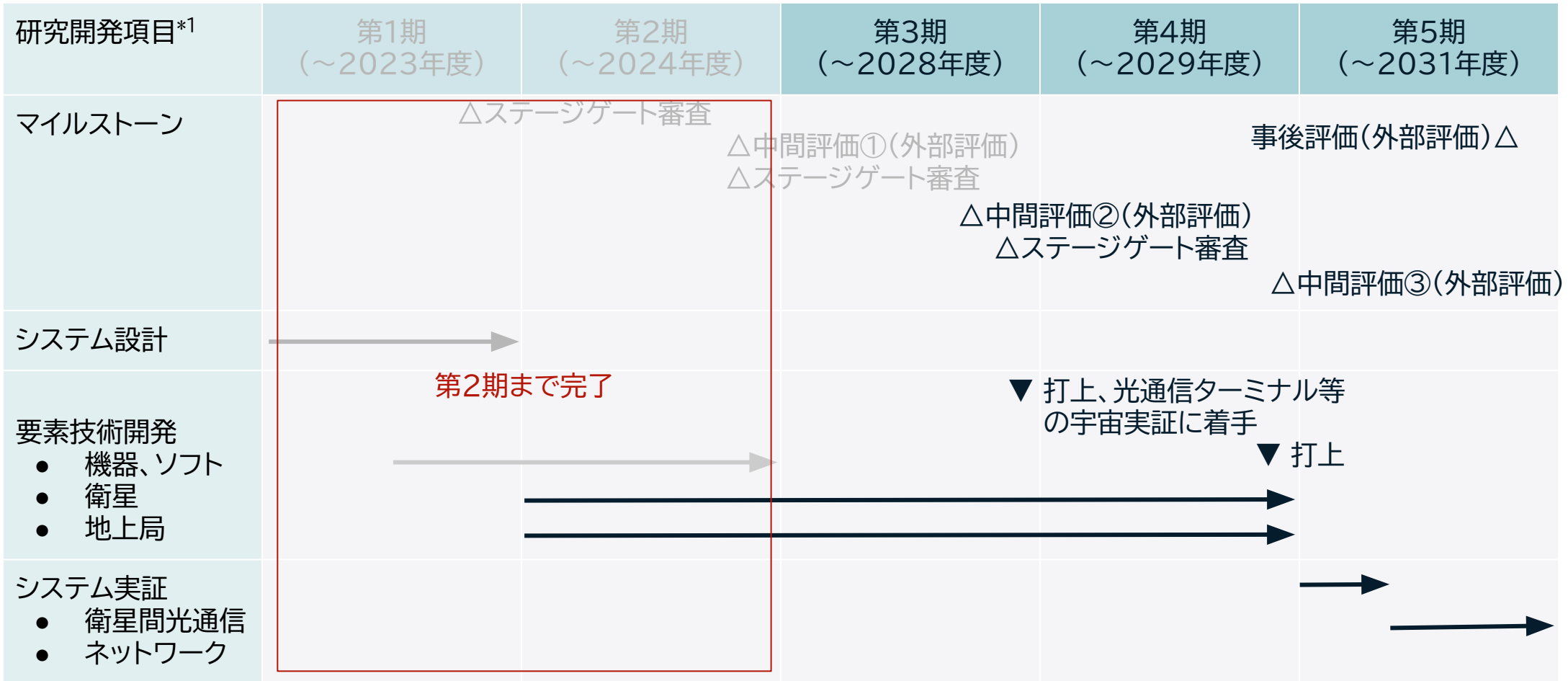
AxelGlobe
自社コンステレーションへの活用を今後検討し、ニアリアルタイムでの画像取得を目指す

*1: 宇宙上でデータを判断し、圧縮データを地上に伝達する技術を指します。

出所: 内閣府・経済産業省「光通信等の衛星コンステレーション基盤技術の開発・実証に関する研究開発構想(プロジェクト型)」(令和4年10月(令和7年4月改定))より当社作成

Kプログラムの進捗

現在は第3期の研究開発段階。宇宙実証に向け、衛星、地上局などの要素技術開発が進捗している。



*1: 本項目で表示している年度はNEDOの会計年度(4月1日～翌年3月末)を示しています。
 出所: 内閣府・経済産業省「光通信等の衛星コンステレーション基盤技術の開発・実証に関する研究開発構想(プロジェクト型)」(令和4年10月(令和7年4月改定))より当社作成

「AxelLiner Laboratory」(AL Lab)の進捗

民間企業も含めた宇宙利用拡大促進を目的とした軌道上実証サービス「AL Lab」にて新規契約を獲得

小型衛星向けコンポーネントメーカーのPale Blue社へのサービス提供契約を締結

本件の概要 *1

顧客	株式会社Pale Blue (小型衛星向けのスラスタ(エンジン)の開発・製造・販売)
実証対象	小型ホールスラスタ「PBH-100」 <ul style="list-style-type: none">・ 高い推力と高い比推力を両立する50～200kg級衛星向けのスラスタ・ 従来の小型衛星向けホールスラスタと比べて起動速度を大幅に短縮し、衛星のミッション機器の作動時間を最大化することが特長
実証時期	2027年
当社の貢献	AL Labを通じた実証機会の提供に加え、衛星コンポーネントのユーザとしての立場から得られた知見を活かし、本実証を支援



Pale Blue 共同創業者 兼 代表取締役 浅川純氏(左)、
当社代表取締役 中村友哉

*1: 案件詳細は12月16日公開の「Pale Blue社との軌道上実証サービス提供に関する契約締結のお知らせ」をご参照ください。

軌道上実証サービスにおける当社の特徴

宇宙向け製品の開発に不可欠なプロセスである軌道上実証機会を、相乗り型で提供し、顧客の事業化へのスピード向上に貢献

宇宙向け製品の開発プロセスにおける 軌道上実証の位置づけ・概要

一般的なプロセス

概念設計/基本設計/
詳細設計

地上での環境試験

軌道上実証

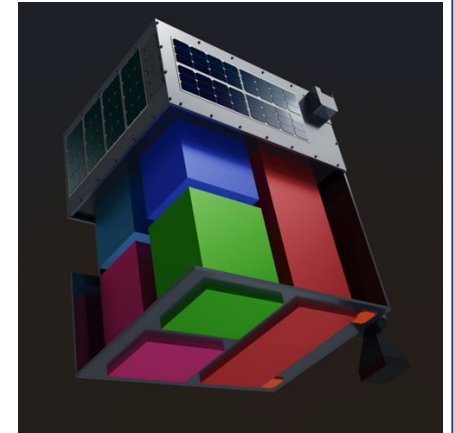
製品化

軌道上実証の概要

- 開発中の宇宙用コンポーネント等を人工衛星に搭載し、軌道上(宇宙環境下)で実際に動作させて検証
- 単に打上げるだけでなく、搭載設計、運用計画、データ取得までを含めて実施し、製品の実用性評価を実施

当社の軌道上実証サービスの特徴

- 汎用バスを用いた相乗り型でのサービスにより、コストを抑えつつ、実証までのリードタイムを短縮。これにより、技術検証から事業化までのスピード向上に貢献
 - 1社単独での実証では衛星製造等で準備期間が長期化し、コスト負担も大きくなりがち
- 国内において相乗り型で軌道上実証を行える機会は限られており、世界的にみても同様のサービスを提供する事業者は数社程度に留まる



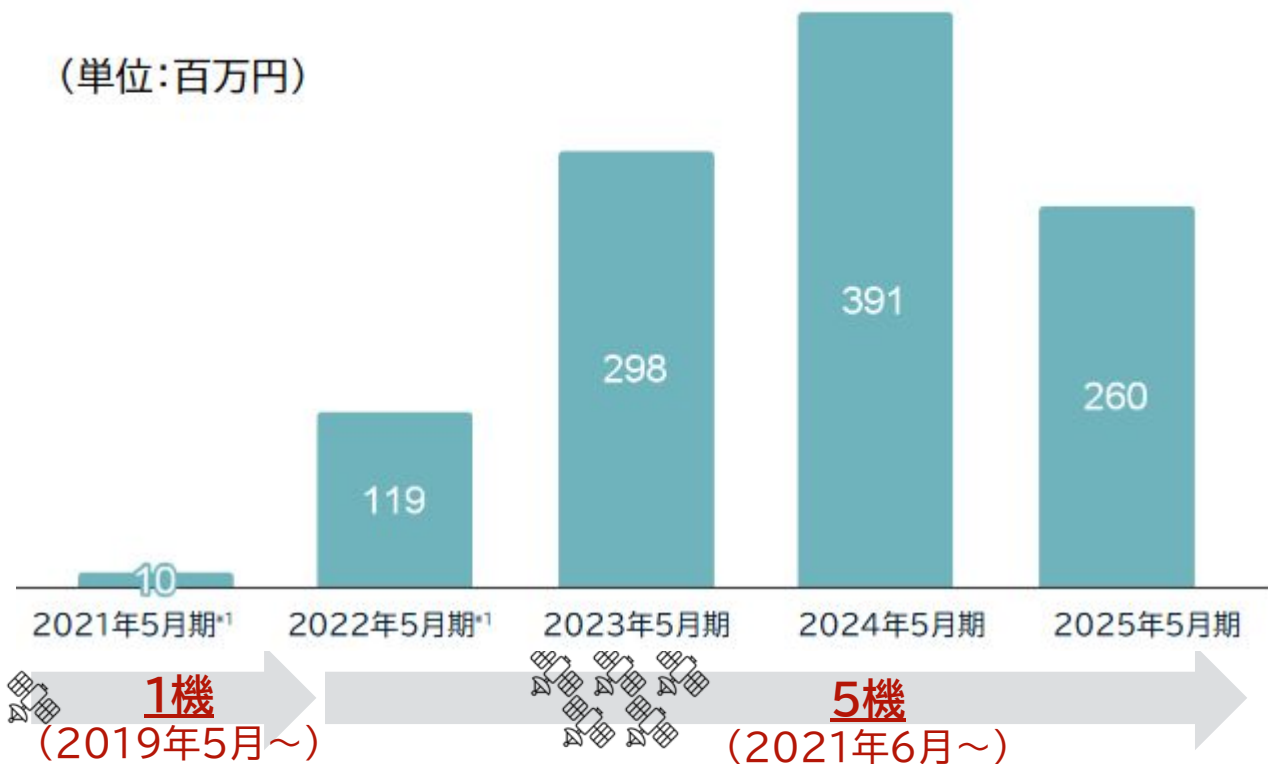
サービス提供イメージ
(下部の区画のように顧客には必要なだけのスペースを提供)

AxelGlobe事業の実績

これまで自社衛星の中分解能光学衛星コンステレーション運用機数を増やすことで、撮影頻度および撮影キャパシティを拡大。
政府系機関に加え、民間企業や海外からの売上高も獲得

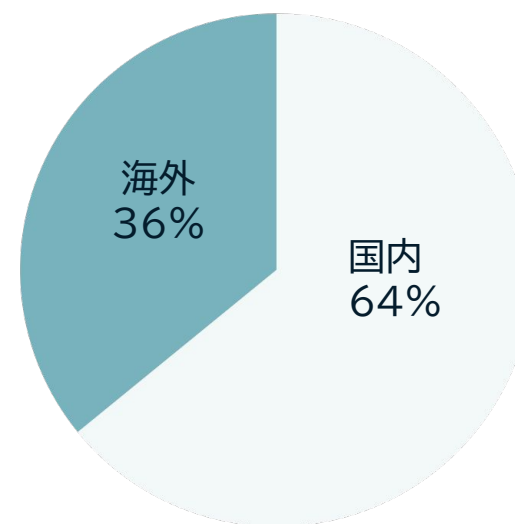
売上高 (通期)

(単位:百万円)

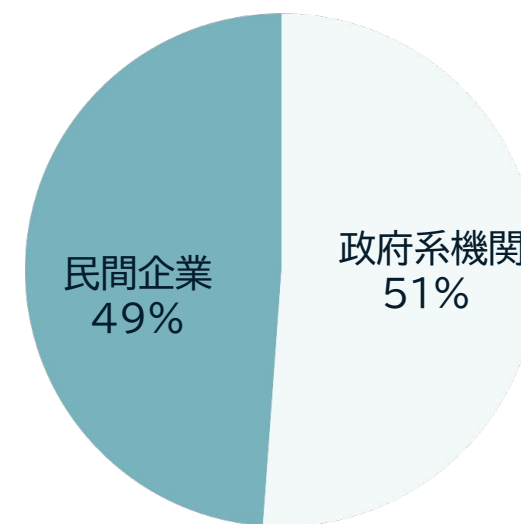


AxelGlobe事業の主要顧客 (2026年5月期第2四半期)

地域別



顧客別



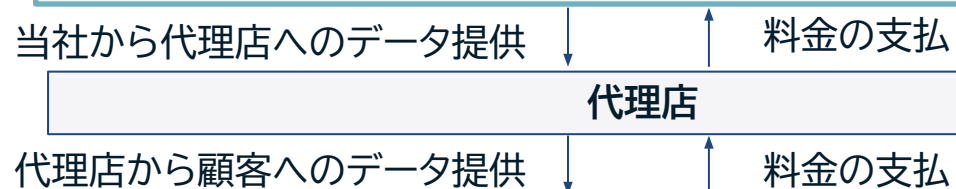
*1: 2021年5月期、2022年5月期については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定又はそれに準じた監査証明を受けておりません。

AxelGlobe事業: 売上の計上方法

主に画像撮影サービスに関する契約を締結し、顧客から依頼された画像撮影を実施し、顧客へ納めることで収益を計上



自社運用衛星にて撮影した画像データを販売及び
衛星画像を使ったサービスを提供

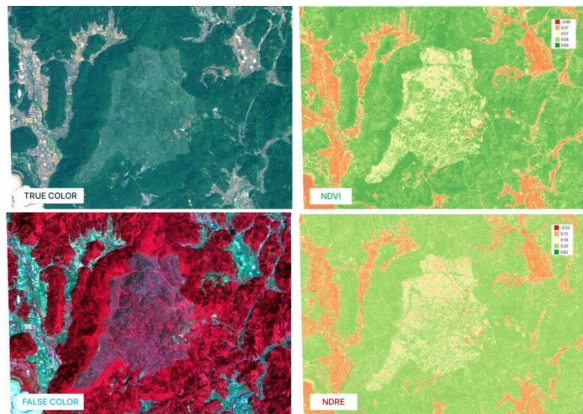


データ並びにデータを使用した
解析・コンサルティングサービスの提供
(直接販売)*1

料金の支払

顧客

農業・林業



SSA(宇宙状況把握)



安全保障



マッピング



*1: 顧客との契約形態により、異なる役務提供となる可能性があります。

AxelGlobe事業の事業領域

数ある地球観測衛星の中でも、光学衛星分野にて事業を展開

<光学衛星とは>

対象物に反射した太陽光の情報から地表を観測する衛星

光学センサを搭載した衛星で、通常のデジタルカメラと同様に太陽を光源として地上の様子を撮影



光学衛星の特徴

- ・ 自らが電波を発せず、受信による観測を行うため、電力消費が少ない
- ・ 電力消費が少ないことから、1機が1日あたり撮影する面積を広く、観測頻度を高く保つことが可能
- ・ 雲に遮られる部分は観測不可

当社の小型光学衛星「GRUS-1」の撮影画像・スエズ運河(エジプト)

AxelGlobe事業の事業領域：光学衛星とSAR衛星

AxelGlobe事業で扱う光学衛星は撮影可能回数と撮影範囲の広さが特徴

	光学衛星	SAR衛星
データの扱いやすさ	<div>○</div> <ul style="list-style-type: none">・カラー画像・専門知識がなくても容易に扱うことができる  <p>当社衛星「GRUS-1」による撮影画像 東京(日本)</p>	<div>△</div> <ul style="list-style-type: none">・モノクロであり、人間の目での判読は困難・データの扱いに専門知識が必要  <p>出所: Copernicus Browser「Sentinel-1 IW, VH - linear gamm」 (Copernicus Sentinel data 2025)</p>
撮影面積 ^{*1}	広い 当社GRUS-1の1機1日あたりの撮影可能面積: 150,000km ²	狭い 国内SAR衛星事業者A社の1日あたりの販売可能面積: 最大1,200km ² ^{*2}
製造コスト ^{*3}	低い	高い

*1: 衛星1機が1日あたりに撮影可能な面積。同様の衛星サイズであった場合の比較です。

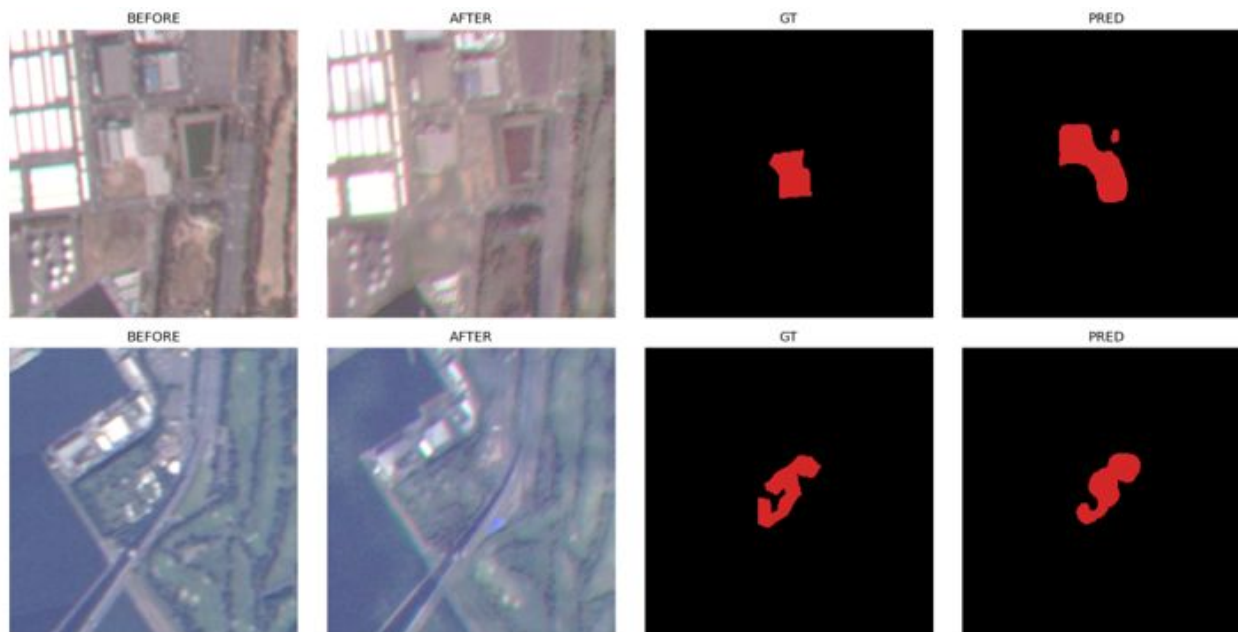
*2: 国内SAR衛星事業者A社の開示資料より、当社にて算出。算出式は、10km(高分解能モードにおける撮影域)×3km(高分解能モードにおける撮影幅)×40枚(1日当たりの販売可能枚数)。

*3: 国内SAR小型衛星事業者と当社の小型衛星製造コストの比較。当社製造コストについては51ページに記載しております。

AxelGlobe事業の事業進捗:ソリューションの開発

当社の光学地球観測衛星「GRUS」による衛星データを活用し、不動産探索AIツールを開発する株式会社WHEREと共同して、不動産登記情報の効率化に向けたPoC(概念実証)を開始

都市開発の状況や土地利用を立体的に把握し、誰もが最新かつ正確な空間情報にアクセスできる不動産ソリューション構築を目指す。



▲衛星画像を基にした同一地点の差異検出例。左2枚の画像内の変化について、目視で検出したデータが右から2枚目、AIで自動検出したデータが右端。

■ 解決すべき社会課題

- 不動産ビジネスにおいて、土地の仕入れは重要なプロセスだが、登記情報と現況が一致していないケースが多く、仕入れの判断遅れや価格評価ミスの原因になっている。
- 特に広域を対象とする不動産業者や自治体にとって、現地の目視調査や紙の資料確認は人的・時間的な負担。

■ 当社の提供価値

- 建物の新設や解体、土地の変化などについて、同一地点を撮影した複数の画像から差異を抽出するAIモデルを開発。
- 顧客が使いやすい形で提供することを重視し、衛星画像そのものでなく、AIで抽出した差異データのみを提供している。

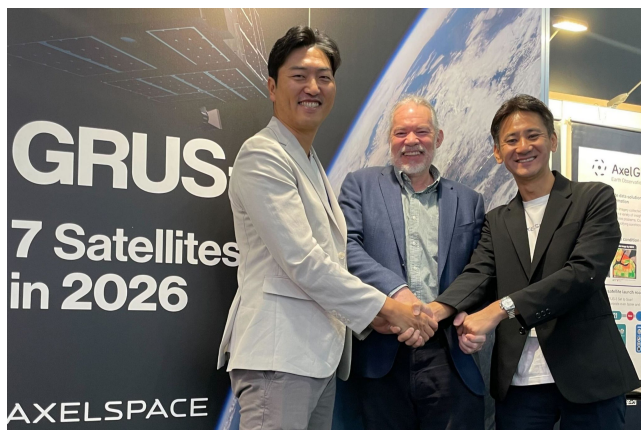
AxelGlobe事業の事業進捗

国内の政府系案件の獲得および長期的な成長を目指す新興国での宇宙利用拡大に対する取り組みを実施

海外案件の獲得に対する取り組み

GeoimageおよびSI AnalyticsとMOUを締結

オーストラリア市場向けに地球観測データ開発やサービス展開において協力することに関して覚書(MOU)を締結。



韓国 Nara Space Technology Inc.とパートナーシップ契約を締結

パートナーシップにより、当社が運用する小型地球観測衛星「GRUS-1」のコンステレーションによる撮影データは「EarthPaper」を通じて提供。

新興国での宇宙利用拡大に対する取り組み

アフリカの2機関と衛星データを利用した社会課題解決に向け覚書を締結

ガーナ宇宙科学技術研究所、資源地図地域センターとMOUを締結。アフリカ諸国をはじめとする新興国のパートナーと協業し、現地ニーズに合わせたソリューション開発・実装を進行。



その他の事業進捗

今後の両事業での事業拡大に肝要な衛星打上げ・地上局の契約を締結

打上げスロットの確保

Exolaunch社と衛星打上げに関するマルチ ローンチ アグリーメントを締結

これまでExolaunch社と契約を締結している打上げスロット手配契約7機分を含め、合計13機分の打上げスロットを確保済み。

地上局アンテナの契約

KSAT社と新たな衛星通信用地上局アンテナ利用契約を締結

衛星通信用地上局アンテナ2基の専用利用契約を締結。
2030年代までの長期にわたり活用予定。

サステナビリティに対する取り組み

アクセルスペースのD-SAIL搭載、「革新的衛星技術実証4号機」小型実証衛星4号機打ち上げ成功のお知らせ

持続可能な宇宙環境の実現に向けた当社の膜面展開型デオービット機構「D-SAIL」は、運用終了後に衛星が軌道上に残存する期間を短くするための軌道離脱装置。




打上げから約1年後の2026年末より軌道上で初めて実証を実施予定。



©Axelspace

今後の衛星開発計画と打上げスロットの確保

●●●:打上げ実績 ■■■:打上げ予定(打上げスロット確保済み) ■■■:協議中のプロジェクト/今後獲得を目指すプロジェクトで想定される打上げ予定

	2024年		2025年		2026年		2027年	
	2024年5月期		2025年5月期		2026年5月期		2027年5月期	
AxelLiner事業 KPI:実証衛星としての打上げ機数(2025年5月期～2028年5月期までに累積6機)								
政府系機関案件							2機 Kプログラム 1機 JAXA-STEPS*2 (AL Lab)	
民間企業案件	 2024年3月:「PYXIS」(自社実証)	1機				1機 軌道上実証 (AL Lab)	2機 軌道上実証 (AL Lab)	
AxelGlobe事業 KPI:コンステレーション運用機数(2028年5月期時点で14機)								
中分解能	 「GRUS-1A～E」	5機	5機	 1機打上げ*3 「GRUS-3α」		12機 「GRUS-3」7機 打上げ	11機*4	
高分解能							3機 3機 打上げ	+2機*5 打上げ時期未定

*1: 契約済みのプロジェクトについては、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期で打上げが実施されない可能性があります。また、現在プロジェクトの一部しか契約締結していないものについても、当該プロジェクトの残部に係る契約未締結も含めて計画を記載しております。また、プロジェクトは通常単年ごとに契約が更新され(複数年契約となる場合もあり)、プロジェクト自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。更に、ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の打上げは実施されない可能性があります。また、未契約分の打上げ予定については、現時点における見込みであるため、仮に契約が締結されたとしても、当該時期と、実際の受注の時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。

*2: 本資料公開日現在、同プログラムにおける研究開発/実証対象への実証機会提供に向け、ホステッドパイロードサービスの調達予定が公表されていることから、小型衛星開発において国内で実績のある当社が十分狙い得るプロジェクトとして掲載しております。現時点では本プロジェクトにおける情報提供要請が行われている段階であり、実際に受注できることを保証するものではありません。本件は実施機関の会計年度で2028年度以降の打上げが想定されています。

*3: 本衛星は実証機であり、コンステレーション運用機数に含めません。

*4: GRUS-1の耐用年数に鑑み、一部の機体がコンステレーションとしての運用を終了する見込みです。

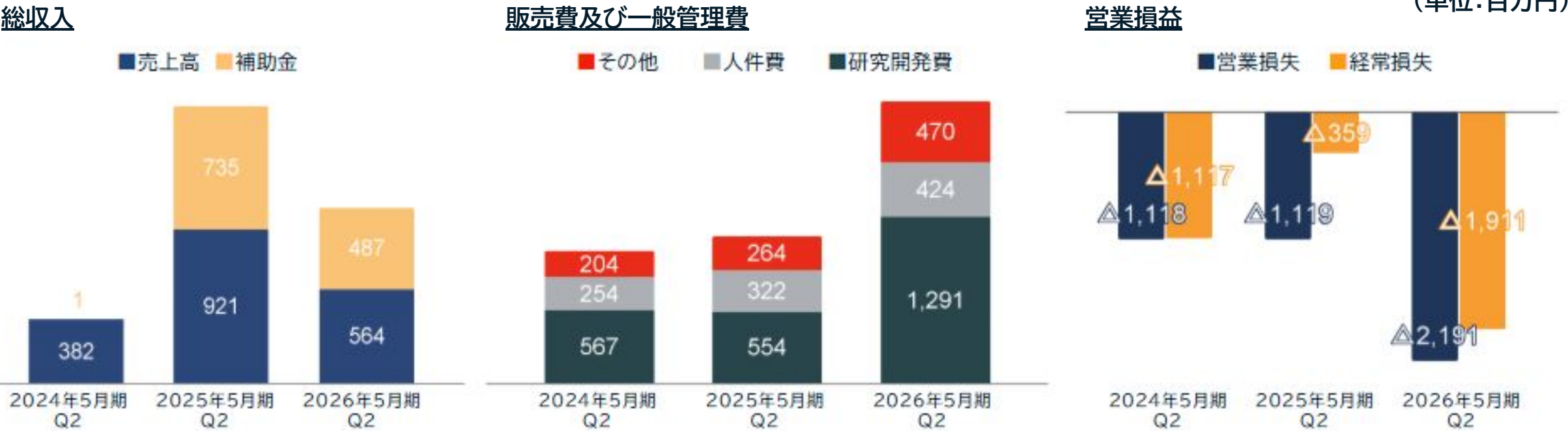
*5: 本件は打上げ時期未定です。内容の詳細は2026年1月14日公表の「衛星の新規製造(設備投資)に関するお知らせ」をご参照ください。

注: 上記のスケジュールは、事業が順調に推移した場合の計画であり、実際の打上げスケジュールとは大きく異なる可能性があります。また、上記の打上げスケジュールが将来実現することを保証するものではありません。

2026年5月期 第2四半期 業績概要

業績推移

2026年5月期第2四半期は、AxelLiner事業の政府系案件の製造フェーズの変化による減収



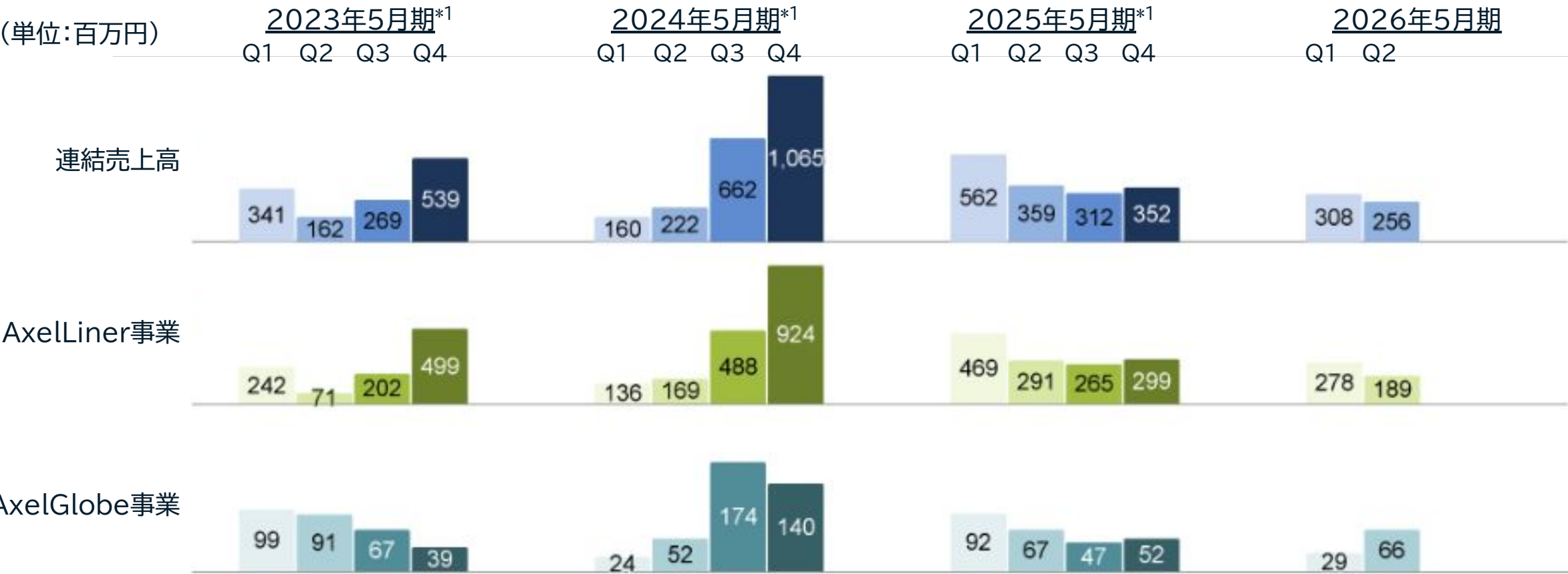
- AxelLiner事業に含まれる政府系案件の製造フェーズの変化による減収（詳細は27ページにて記載）
- 自社衛星の地上試験用モデルの製造により研究開発費が増加
 - 人件費、採用費の増加
- 左記事由による営業損失増加
 - 上場に伴う営業外費用の増加

注： 2024年5月期Q2については四半期連結財務諸表を作成していないことから、参考値を記載しております。

四半期業績推移

受託案件の納品・検収タイミングやプロジェクトの進捗状況などの要因により四半期ごとの大きく変動する可能性があり、特に第4四半期において売上高が多額となる傾向にある。

【セグメント別の四半期売上高推移】



*1: 2023年5月期、2024年5月期、2025年5月期Q1については四半期連結財務諸表を作成していないことから、参考値を記載しております。

連結四半期純利益 増減要因(前年同期比)

主に将来の衛星開発に関わる研究開発費の増加の影響により減益



*1: 2026年1月14日公表の「固定資産の減損損失(特別損失)の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

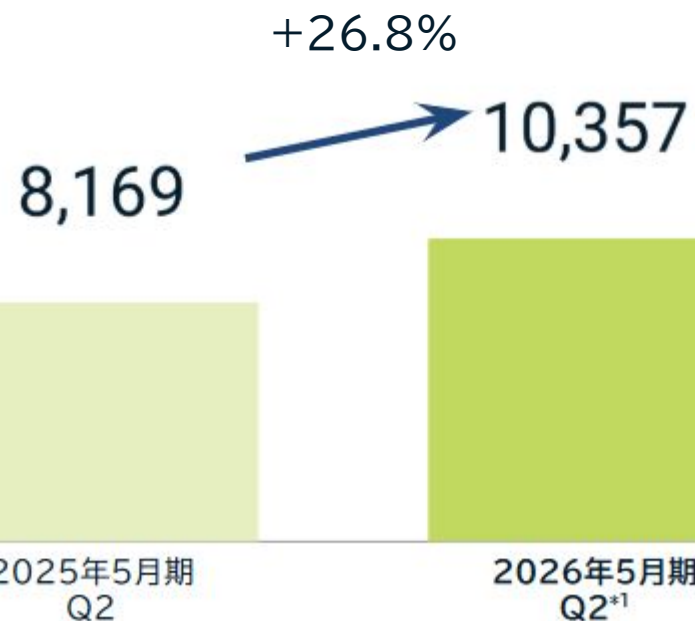
セグメントごとの受注残高推移

受注残高は前期比対比で事業セグメントいずれも増加

受注残高とは、該当期間末までの全期間における受注高の合計額の内、収益に未計上のものを指す。

AxelLiner事業

(単位:百万円)



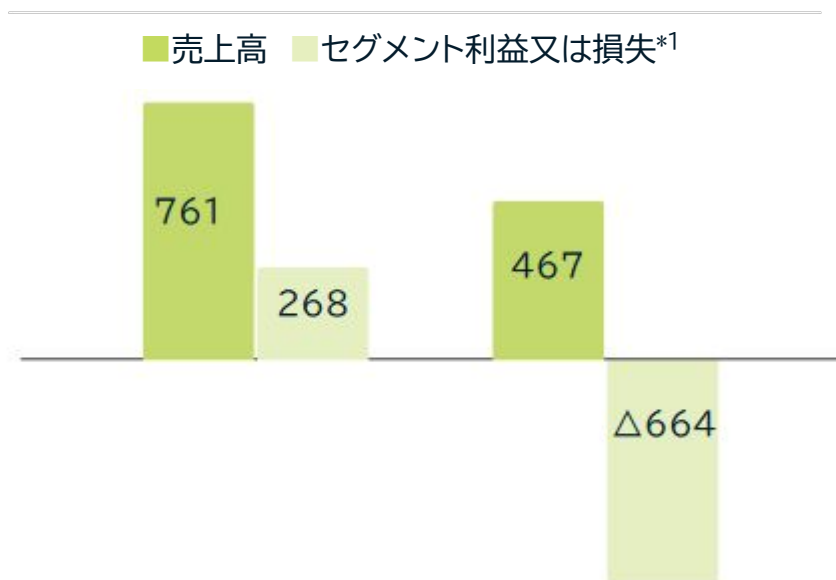
AxelGlobe事業

(単位:百万円)



*1: 2026年5月期Q2末以降に受注した案件の残高は含まれません。
注: 本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。

セグメント別実績:AxelLiner事業



項目	(単位:百万円) 期別	2025年5月期 Q2	2026年5月期 Q2	前期比
売上高		761	467	Δ38.5%
売上原価		743	456	Δ38.5%
売上総利益		17	11	Δ37.3%
セグメント損失(Δ)*1		268	Δ664	-

【前年対比要因】

- **売上高**
 - 売上原価をベースに売上高が計上されるKプログラムにおける製造計画により売上原価が減少したことから、売上高は減少
 - 前期は製造に関わる人件費のほか、部材調達を実施。現在は調達した部材による実証機の組み立てを実施
- **売上原価、売上総利益**
 - Kプログラムにおける製造計画により、売上原価は減少
- **セグメント損失*1**
 - 「GRUS-3α」、「GRUS-3」及び高分解能衛星に関わる研究開発費の増加
 - 人件費増加
 - 営業外収益として計上される補助金収入の減少

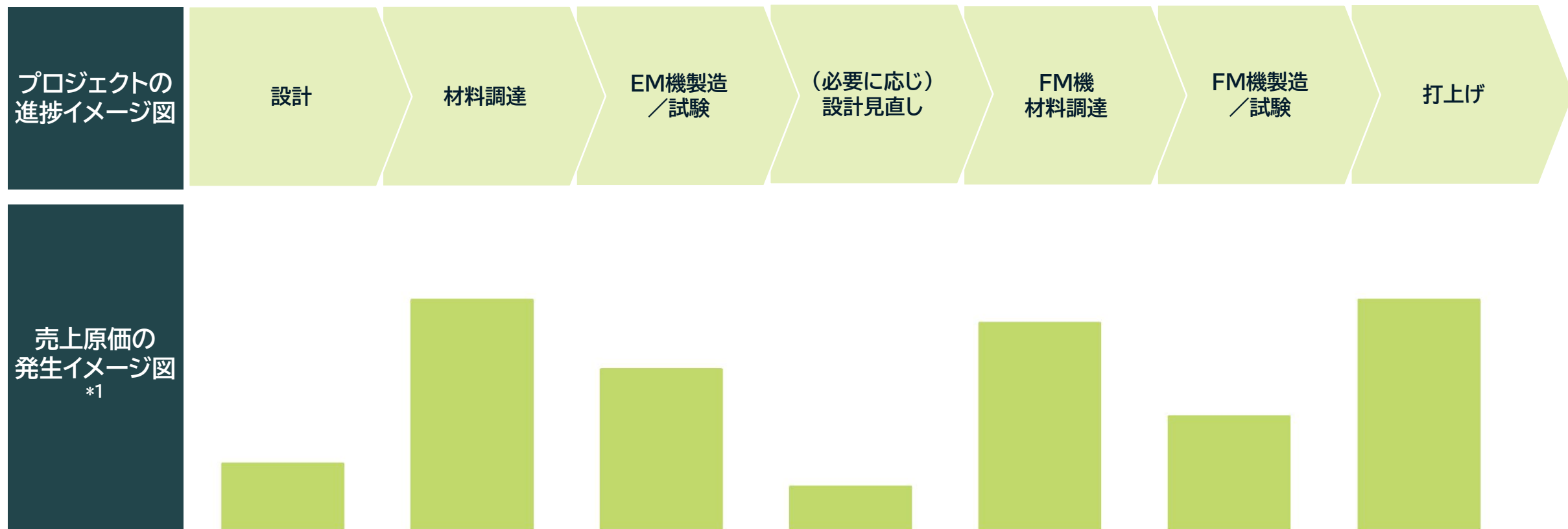
【業績分析】

- **KPIに対する進捗**
 - 実証衛星としての打上げ機数がKPI
 - 2025年5月期～2028年5月期までに累積6機
 - 現状の進捗:累積1機
2026年5月期にGRUS-3α 1機を打上げ

*1: 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

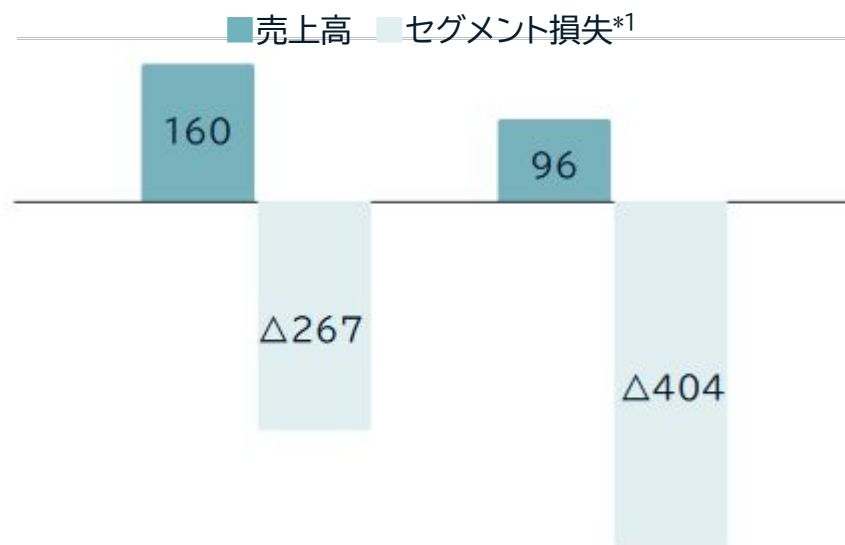
Kプログラムのプロジェクト進捗に伴う原価発生イメージ

材料調達のフェーズで売上原価が増加し、設計、製造／試験のタイミングでは減少する傾向にある



*1: プロジェクト進捗における各フェーズで認識される原価についてイメージ化したものであり、実際のプロジェクトにおいて発生する金額とは異なる場合があります。

セグメント別実績:AxelGlobe事業



項目	(単位:百万円) 期別	2025年5月期 Q2	2026年5月期 Q2	前期比
売上高		160	96	△39.9%
内、政府系機関		113	49	△56.5%
内、民間企業		46	47	+0.3%
売上原価		155	112	△27.8%
売上総利益(△損失)		4	△15	-
セグメント損失(△)*1		△267	△404	-

【前年対比要因】

- 売上高
 - 民間企業案件は微増
 - 政府系案件の売上計上期間変更による売上高減少
- 売上原価、売上総利益
 - 政府系案件の売上計上期間変更による売上高減少に伴う売上原価減少
- セグメント損失*1
 - 「GRUS-3」及び高分解能衛星に関わる研究開発費の増加
 - 人件費増加

【業績分析】

- KPIに対する進捗
 - コンステレーション運用機数がKPI
 - 2028年5月期までに14機
 - 現状の進捗:2026年5月期Q2時点の運用機数は5機

*1; 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

連結損益計算書

項目	(単位:百万円)	期別	2025年5月期 Q2	2026年5月期 Q2	
			実績	実績	前期比
売上高			921	564	△38.8%
売上原価			899	569	△36.7%
売上総利益(△損失)			22	△4	-
販売費及び一般管理費			1,141	2,186	+91.5%
営業損失			△1,119	△2,191	-
営業外収益			838	500	△40.3%
営業外費用			78	221	+180.8%
経常損失			△359	△1,911	-
特別利益			—	-	-
特別損失			23	301	+1176.0%
税金等調整前当期純損失			△383	△2,213	-
法人税、住民税及び事業税			1	2	+19.5%
法人税等調整額			—	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失			△385	△2,215	-
総収入(Non-GAAP)*1			1,657	1,051	△36.5%

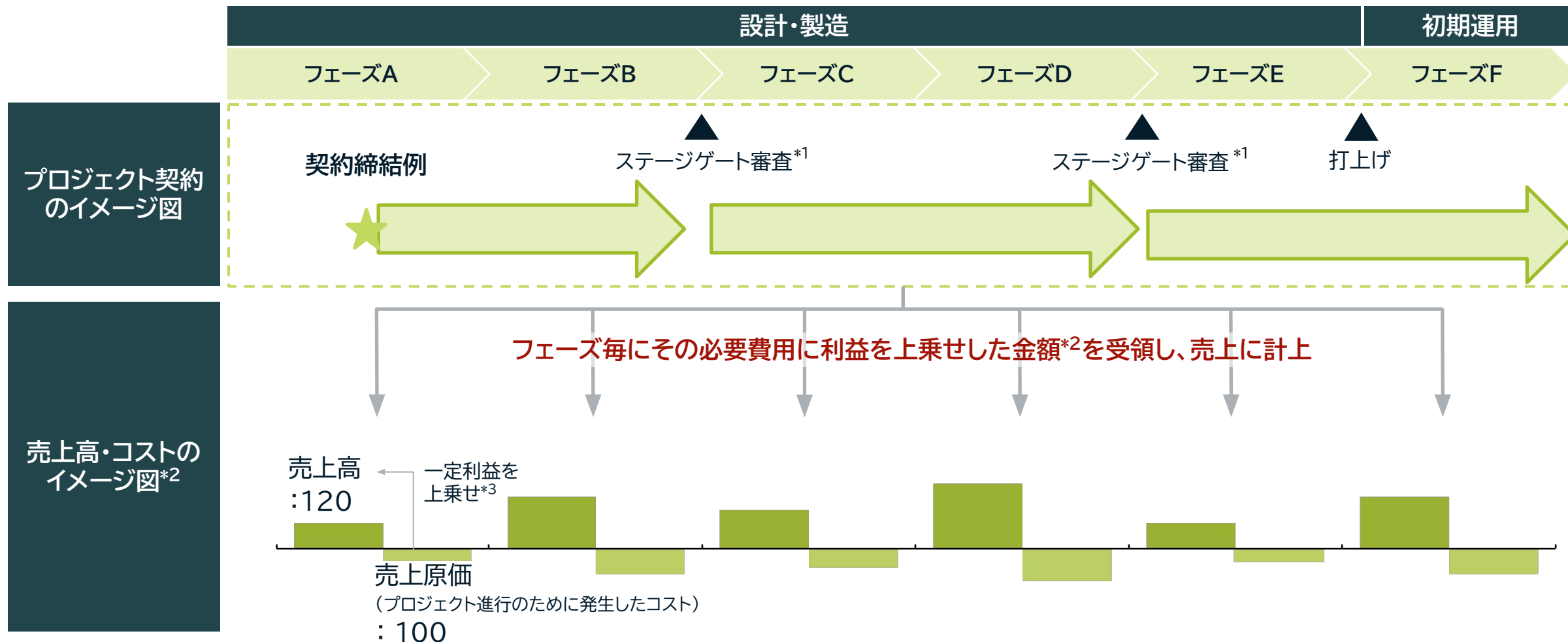
*1: 総収入はNon-GAAP指標であり、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標です。政府系機関等からの補助金収入を売上高に加算して算出しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円) 項目	期別	2025年5月期末	2026年5月期 Q2期末	主な増減要因
		実績	実績	
資産		9,523	16,238	
流動資産		9,396	14,969	
現金及び預金		5,006	10,922	上場に伴う資金調達および長期借入れによる増加
その他の流動資産		4,389	4,047	衛星製造に関わる原材料の減少
固定資産		126	1,269	GRUS-3に関わる資産による増加
負債		6,495	7,491	
流動負債		1,545	3,506	
借入金		388	1,633	固定負債から1年内返済分を振替えたことによる増加
その他の流動負債		1,157	1,873	助成金の概算払受領による前受金の増加
固定負債		4,949	3,984	
借入金		4,949	3,984	主に流動負債へ1年内返済分を振替えたことによる減少
純資産		3,027	8,747	上場に伴う資本金および資本剰余金の増加
負債純資産合計		9,523	16,238	

AxelLiner事業:売上の計上方法（進捗イメージ）

プロジェクト期間の長い政府系案件については、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識



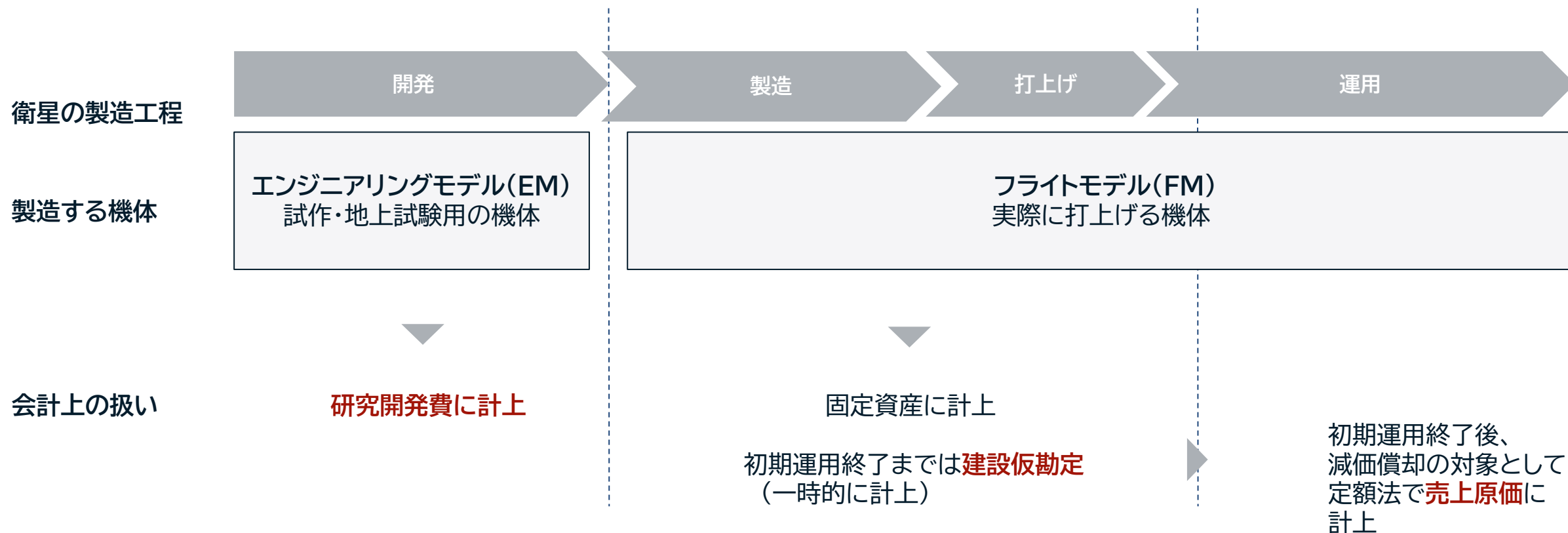
*1: 政府系開発案件では一般的な中間評価、ステージゲート審査により案件が頓挫した場合、その時点以降の残りの売上が計上されない可能性があります。

*2: 本イメージ図では、簡略化のため、実際には費用に上乗せされる利益を考慮せずにグラフを作成、また、各フェーズで認識されるキャッシュフロー及び売上金額は、実際のプロジェクトとは異なる場合があります。

*3: 利益の上乗せ幅はプロジェクト毎に異なり、イメージを記載したものです。

AxelGlobe事業: 自社衛星の会計上の扱い

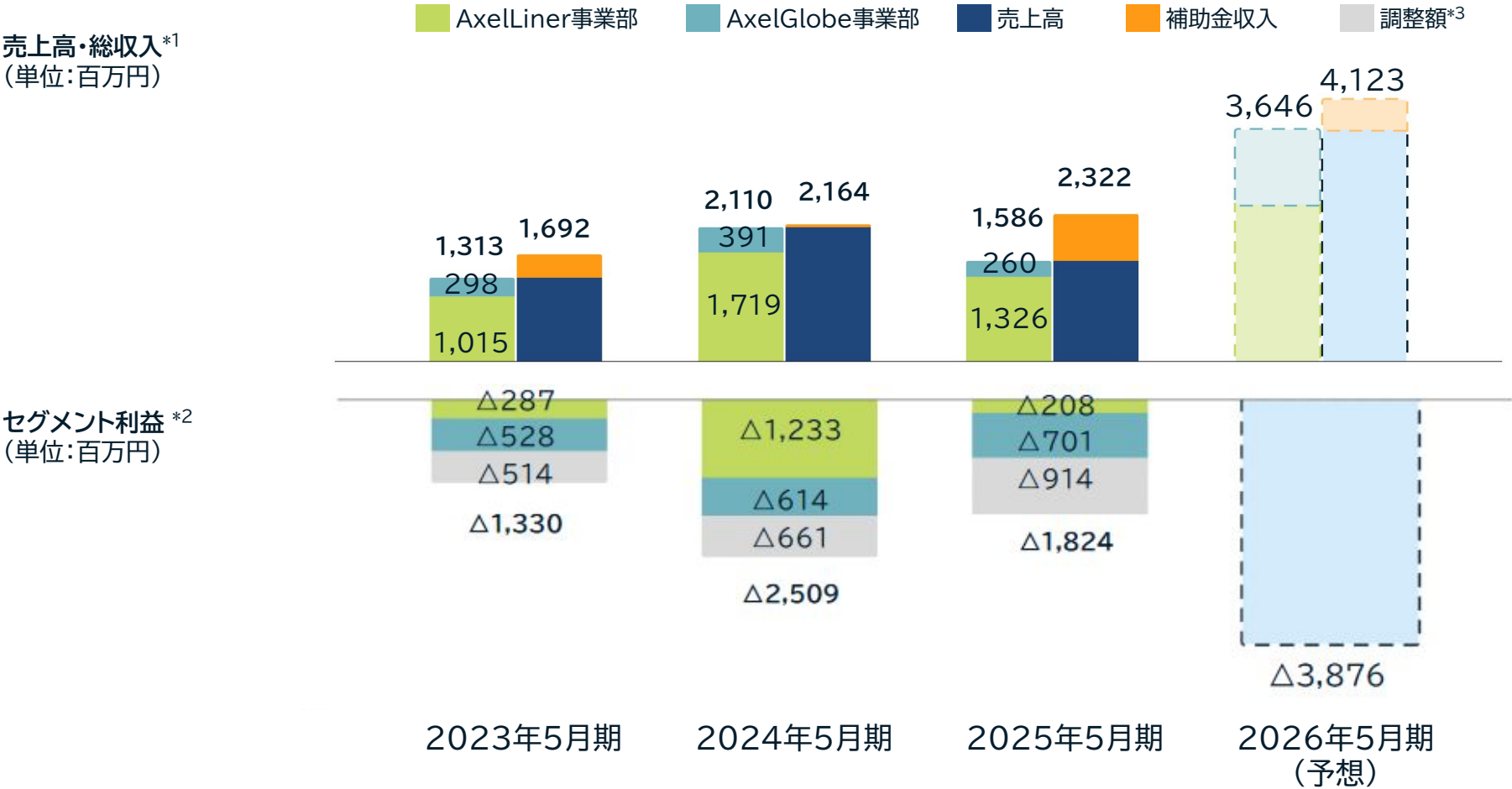
- 主にAxelGlobe事業に供する自社衛星は開発から運用のフェーズ進捗に応じて計上方法が変化
- 試作・地上試験用の機体の製造時は研究開発費として費用計上
- 打上げ機体の製造時は建設仮勘定として資産化の後、初期運用終了後に減価償却の対象となる



2026年5月期 業績予想

業績推移見通し

2025年8月13日公表の2026年5月期の業績予想から変更なし。



*1: 総収入はNon-GAAP指標であり、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標です。政府系機関等からの補助金収入を売上高に加算して算出しております。

*2: 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

*3: 調整額は各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない全社共通の管理費用)です。

業績予想(連結)

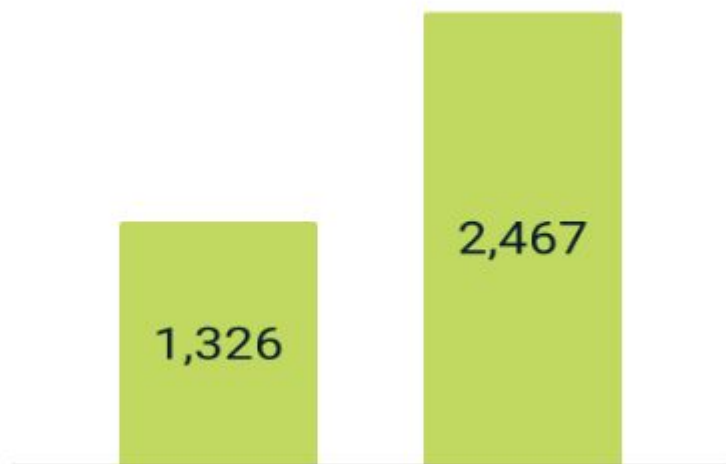
防衛省「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」が2026年5月期通期の業績予想(2025年8月13日公表)及び来期2027年5月期以降の業績に与える影響は、現在精査中。本事業契約の締結は、令和8年2月頃と見込まれる。

(単位:百万円)	期別	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
項目				
売上高		1,586	3,646	+129.9%
営業損失(△)		△2,495	△3,999	-
経常損失(△)		△1,824	△3,876	-
親会社株主に帰属する当期純損失(△)		△1,950	△3,879	-
総収入(Non-GAAP)*1		2,322	4,123	+77.6%

*1: 総収入はNon-GAAP指標であり、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標です。政府系機関等からの補助金収入を売上高に加算して算出しております。
注: 業績予想の詳細に関しましては、2025年8月13日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

セグメント別業績予想:AxelLiner事業

2026年5月期はKプログラムの進行、AxelLiner Laboratoryのプロジェクトを進行



【業績予想の主要な前提】*1

売上高

- ・ 契約に定められたサービス提供期間にわたり売上計上を行う契約とサービスに係る顧客の検収完了時点で売上を計上する契約が存在
- ・ 売上高予想は、主にNEDOのKプログラム及びAL Labを利用予定の民間企業からの売上高で構成
- ・ Kプログラムは、進捗に応じて発生する材料費・経費等の売上原価に、契約上の一定マージン率を乗じて算定

売上原価、売上総利益

- ・ 売上原価は、主にNEDO案件における材料費/経費、人件費を含む
- ・ 人件費は、プロジェクトごとの人員計画に基づき、人員数×平均1人当たり人件費により算定
- ・ 材料費/経費は、開発スケジュールに基づき必要な材料/サービス等の数量及び購買単価を見積り算定

【注記:営業外収益】

- ・ NEDO「超小型衛星コンステレーション技術開発実証事業(2023年度～2026年度)」(NEDOの会計年度)の採択済みプロジェクトに係る予定支出額に基づき助成金額見込みを算定し、精算・検査期間を勘案の上、業績予想に反映

(単位:百万円) 期別 項目	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
売上高	1,326	2,467	+86.0%
売上原価	1,206	2,247	+86.3%
売上総利益	120	220	+83.3%
売上高総利益率	9.1%	8.9%	△0.1pt

*1: 業績予想の策定プロセスの詳細に関しましては、2025年8月13日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

AxelLiner事業のパイプライン

AxelLiner事業の受注残高(2026年5月期Q2末時点):10,357百万円。

事業	顧客		プロジェクト*1*2*3	プロジェクト 想定期間*1*2*3
AxelLiner事業	政府系機関	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	経済安全保障重要技術育成プログラム(K Program)*4	~2032年5月期
AxelLiner事業	政府系機関	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	超小型衛星コンステレーション技術開発実証事業*5	~2027年5月期

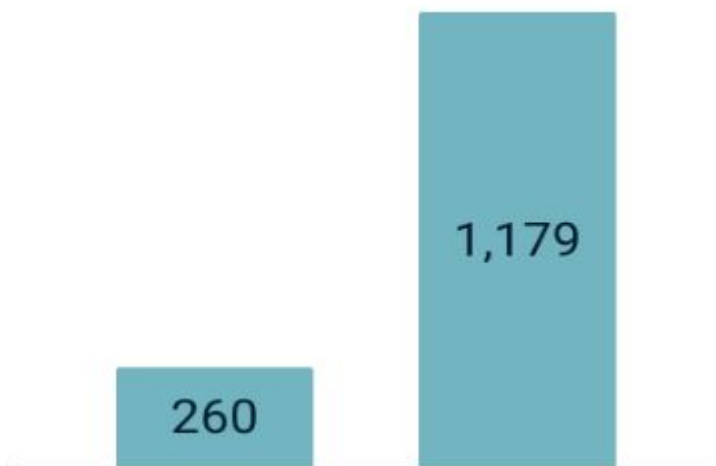
Q2末以降の新規獲得案件*6

事業	顧客		プロジェクト*1*2*3	プロジェクト 想定期間*1*2*3
AxelLiner事業 (AL Lab)	民間企業	Pale Blue社	ホールスラストの軌道上実証サービス*7	2025年12月16日から複数年

- *1: 契約済みのプロジェクトについては、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期に売上が計上されない可能性があります。また、プロジェクトは通常単年ごとに契約が更新され(複数年契約となる場合もあり)、プロジェクト自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。更に、ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の未契約分の売上が計上されない可能性があります。また、未契約分については、仮に契約が締結されたとしても、実際の受注の時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。
- *2: ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の未契約分の売上が計上されない可能性があります。また、未契約分については、現時点におけるプロジェクト時期の見込みであるため、仮に契約が締結されたとしても、当該時期と、実際の受注時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。
- *3: 契約済みのプロジェクトについては、ステージゲート審査(中間評価)、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期に売上が計上されない可能性があります。また、単年ごとに契約を更新するプロジェクトであり、プログラム自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。
- *4: 案件概要は9ページ、案件詳細及びプロジェクトイメージは10~11ページをご参照ください。
- *5: 案件概要は9ページ及び2025年11月7日公開の「[営業外収益\(補助金収入\)の計上に関するお知らせ](#)」をご参照ください。本プロジェクトは、2021年-2022年度は経済産業省が実施し、2023年度-2026年度はNEDOに引き注がれたものです。毎年度補助金の上限が通知される方式で、NEDOの会計年度2026年度までは交付が決定しています。本プロジェクトによる収入は、営業外収益(補助金による収入)として計上されるものです。
- *6: 本項目のプロジェクトにつきましては、Q2末時点の受注残高には含まれておりません。
- *7: 案件概要は12ページ及び2025年12月16日公開の「[Pale Blue社との軌道上実証サービス提供に関する契約締結のお知らせ](#)」をご参照ください。本件は2026年5月期第3四半期末(2026年4月中旬発表)の受注残高に含まれる予定です。

セグメント別業績予想:AxelGlobe事業

2026年5月期は政府系案件の着実な実行を行うことに加え、2027年5月期打上げ予定の「GRUS-3」の製造を推進



【業績予想の主要な前提】*1

売上高

- ・ 主に画像撮影サービスに関する契約を締結し、顧客から依頼された画像撮影を実施・データを提供することで収益が計上
- ・ 売上高予想については、顧客別かつ月別の受注計画における案件ごとの受注額に、受注確度に応じた掛け目を乗じて算定
- ・ 各案件の受注額は、想定撮影面積に販売単価を乗じて見積もり。掛け目については、各案件の営業進捗に応じて設定

売上原価、売上総利益

- ・ 売上原価には、主に画像データの取得やデータ処理に関する経費、人件費を含む
- ・ 経費には、主に撮影画像データの保存等を行うためのサーバー費用、衛星と基地局との通信費及び外注費を含む

(単位:百万円) 期別 項目	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
売上高	260	1,179	+353.5%
売上原価	272	733	+169.5%
売上総利益(△損失)	△12	446	-
売上高総利益率	△4.8%	37.8%	+42.6pt

*1: 業績予想の策定プロセスの詳細に関しましては、2025年8月13日公開の「[東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ](#)」をご参照ください。

AxelGlobe事業のパイプライン

AxelGlobe事業の受注残高(2026年5月期Q2末時点):135百万円

事業	顧客		主なプロジェクト*1*2*3	プロジェクト 想定期間*1*2*3
AxelGlobe事業	政府系機関	経済産業省	多種衛星のオンデマンドタスキング及びデータ生産・配信技術の研究開発	～2027年5月期
AxelGlobe事業	政府系機関	防衛省	画像データの取得（その11－2）*4	～2026年5月期
AxelGlobe事業	政府系機関	農林水産省	令和7年度行政記録情報等を活用した筆ポリゴン更新効率化手法の調査・開発業務*5	～2026年5月期
AxelGlobe事業	民間企業	SSA案件 *6	宇宙状況把握(SSA; Space Situational Awareness)	-

Q2末以降の新規獲得案件(落札済み/契約締結前のプロジェクト)*7

事業	顧客		プロジェクト*1*2*3	プロジェクト 想定期間*1*2*3
AxelGlobe事業	政府機関	防衛省	衛星コンステレーションの整備・運営等事業*8	～2031年5月期

- *1: 契約済みのプロジェクトについては、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期に売上が計上されない可能性があります。また、プロジェクトは通常単年ごとに契約が更新され(複数年契約となる場合もあり)、プロジェクト自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。更に、ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の未契約分の売上が計上されない可能性があります。また、未契約分については、仮に契約が締結されたとしても、実際の受注の時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。
- *2: ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の未契約分の売上が計上されない可能性があります。また、未契約分については、現時点におけるプロジェクト時期の見込みであるため、仮に契約が締結されたとしても、当該時期と、実際の受注時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。
- *3: 契約済みのプロジェクトについては、ステージゲート審査(中間評価)、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期に売上が計上されない可能性があります。また、単年ごとに契約を更新するプロジェクトであり、プログラム自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。
- *4: 防衛省情報本部「令和6年度契約分入札情報 第256号 画像データの取得(その11－2)」です。
- *5: 案件概要は2025年9月19日公開の「[一般競争入札\(農林水産省\)落札に関するお知らせ](#)」をご参照ください。
- *6: 本プロジェクトの当該企業は非公開となります。また、プロジェクト総額・想定期間が決まっておりませんが、当該企業との契約により今後も継続的な役務提供が見込まれております。
- *7: 本項目のプロジェクトにつきましては、Q2末時点の受注残高には含まれておりません。
- *8: 案件概要は6ページ及び2025年12月25日公開の「[防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」を落札](#)」をご参照ください。本件が2026年5月期通期の業績予想(2025年8月13日公表)及び来期2027年5月期以降の業績に与える影響は、現在精査中です。具体的内容につきましては、契約締結前であり発注機関における機密保護の必要性から、非開示といたします。本事業契約の締結は、2026年2月頃と見込まれております。また、今後、開示すべき事象が発生した場合には、速やかに情報開示いたします。

今後獲得を目指すプロジェクト

今後獲得を目指すプロジェクトとして、当社の成長に大きく貢献するプロジェクトが存在

事業	顧客		プロジェクト*1*2*3	プロジェクト 想定期間*1*2*3
AxelLiner事業 (AL Lab)	民間企業	採択企業	宇宙戦略基金「衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証」*2	～最長6年
AxelLiner事業 (AL Lab)	政府機関	JAXA	JAXA宇宙技術実証加速プログラム(JAXA-STEPS)*3	公表前
AxelLiner事業	政府機関	JAXA	宇宙戦略基金 第2期技術開発テーマ*4	テーマごとに異なる
AxelGlobe事業	政府機関	JAXA	宇宙戦略基金 第2期技術開発テーマ*4	テーマごとに異なる

*1: ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の未契約分の売上が計上されない可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては59ページをご参照ください。

*2: 本テーマは、当社自身が採択されるものではなく、採択された企業の実証ニーズがAL Labの顧客ターゲットになり得るという観点で、当社が獲得を目指すプロジェクトとして認識しております。既に複数の顧客ターゲットと軌道上実証支援に係る協議を開始しているものの、現時点では口頭での協議を行っている初期段階で契約未締結の段階であり、実際に受注できることを保証するものではありません。仮に契約が締結できた場合も、表中の時期は当社の現時点におけるプロジェクト計画を基に算定しているため、当社の想定通りの時期に売上を計上できない可能性があります。案件詳細は45ページをご参照ください。

*3: 本資料公開日現在、同プログラムにおける研究開発/実証対象への実証機会提供に向け、ホステッドパイロードサービスの調達予定が公表されていることから、小型衛星開発において国内で実績のある当社が十分狙い得るプロジェクトとして掲載しております。現時点では本プロジェクトにおける情報提供要請が行われている段階であり、実際に受注できることを保証するものではありません。

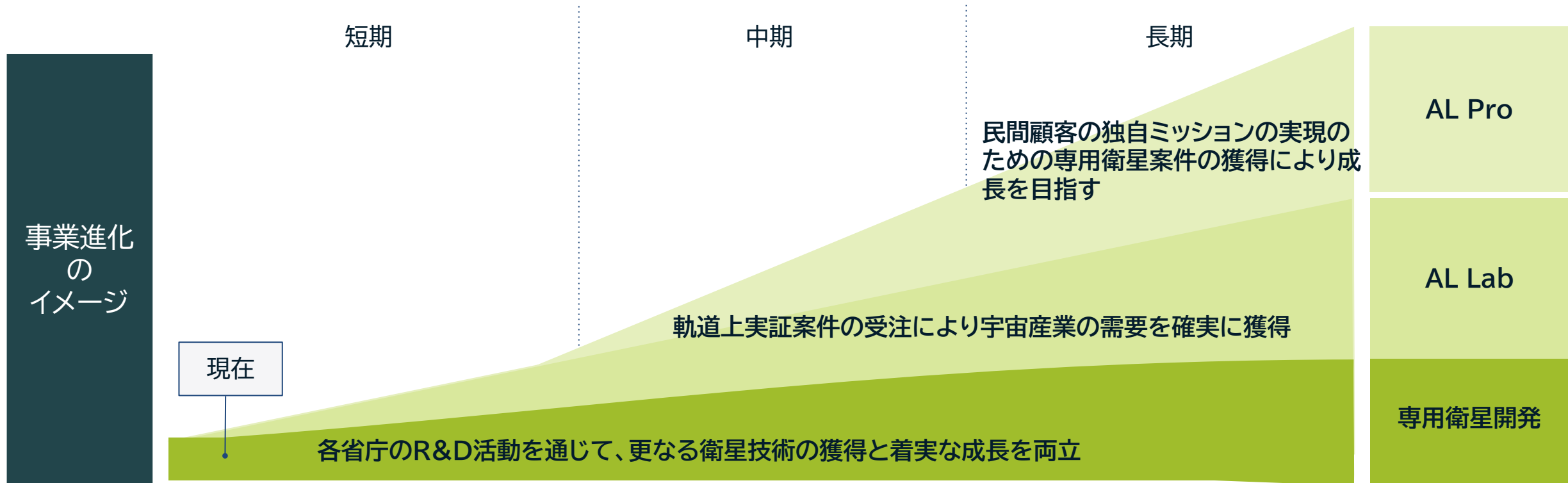
*4: 本プロジェクトの詳細は非開示となります。現時点では審査が進行している段階であり、実際に受注できることを保証するものではありません。仮に契約が締結できた場合も、表中の時期は当社の現時点におけるプロジェクト計画を基に算定しているため、当社の想定通りの時期に売上を計上できない可能性があります。なお、個別の公募案件(宇宙戦略基金を含む)に関する応募状況や検討内容の詳細については、現時点では開示しておりません。

出所: JAXA HP「JAXA宇宙戦略基金」、「JAXA宇宙技術実証加速プログラム」

事業計画

AxelLiner事業の中長期の成長イメージ*1

各省庁のR&D活動を通じた技術開発と民間企業の需要獲得を目指す

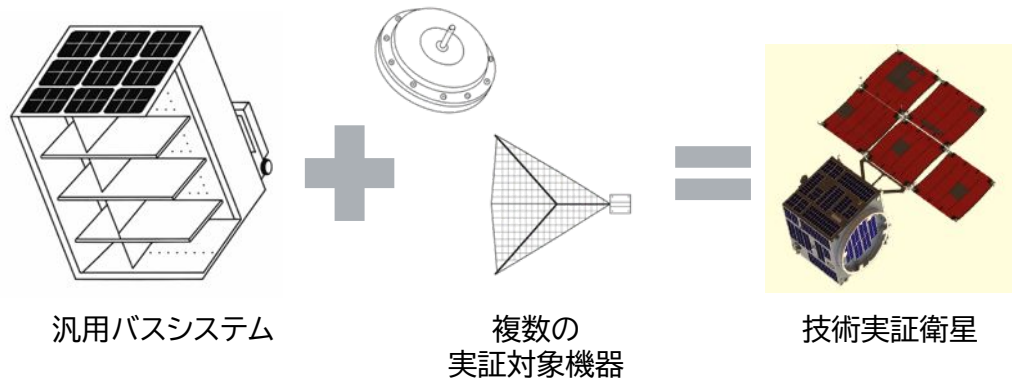


*1: AxelLiner事業の中長期の成長イメージ図であり、実際とは異なる場合があります。

今後のAxelLiner事業の成長：汎用小型衛星バスを活用しサービスを展開

汎用小型衛星バスの活用により最短1年での打上げを実現し、民間企業の宇宙ビジネスへの参入促進を企図

AxelLiner Laboratory(「AL Lab」)



宇宙用コンポーネントの軌道上実証を支援

AxelLiner Professional(「AL Pro」)



顧客の独自ミッションを実現する
専用衛星の開発を支援

今後のAxelLiner事業の成長: AxelLiner Laboratory(AL Lab)

これまで政府系案件で培った技術を民間企業案件にも活用
宇宙空間での動作確認(軌道上実証)を行いたい顧客に新サービスを展開

民間顧客の声(軌道上実証ニーズ)

- 宇宙産業は世界的に飛躍的な拡大が見込まれる成長市場
- 一方、**宇宙用部品(コンポーネント)の開発過程において発生する宇宙空間での動作を確認する試験(軌道上実証)のニーズに応えるサービスが不足。日本国内でも同様**



宇宙用コンポーネント
開発事業者

新規開発した宇宙用コンポーネントを早期に販売に繋げたい

しかし、宇宙空間で動作させた実績がなければ買ってもらえない

宇宙空間での動作実験をしたいが、ほとんど機会がない

民間企業による軌道上実証ニーズへの政府による支援

グローバルで軌道上実証ニーズの急拡大が予測される

国内

宇宙戦略基金 第一期^{*1}のテーマの一つに、「衛星サプライチェーン構築のための衛星部品・コンポーネントの開発・実証」^{*2}が選定され、採択予定数7-12社に対し、22社が応募。**支援総額180億円**

海外

2018年および2022年、ESA(欧州宇宙機関)の軌道上実証サービスに係る補助金枠では、それぞれ50件超の企業等が応募

AL
Lab



サービス内容

- 宇宙用コンポーネントの軌道上実証機会の提供

提供価値

- 独自の汎用小型衛星バスにてミッション搭載部分の区画を販売
- 複数のミッションを搭載でき、相乗りを可能にし、顧客に実証機会を多く提供
- 顧客は実証したいコンポーネントに応じて、1機占有も選択可能

2026年には、シナノケンシとの共同開発した姿勢制御機器(リアクションホイール)で軌道上実証を実施予定



*1: 政府が民間事業者による宇宙分野におけるビジネス化を目的としてJAXAに設置されたものです。

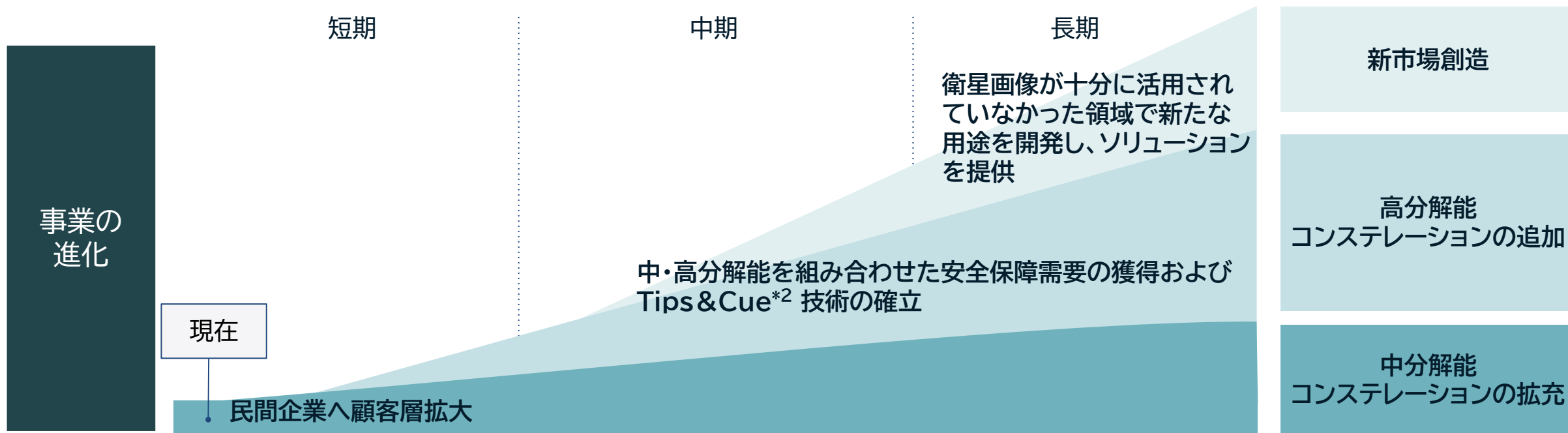
*2: 本テーマは、当社自身が採択されるものではなく、採択された企業の実証ニーズがAL Labの顧客ターゲットになり得るという観点で、関連するテーマとして認識しております。

出所: 経済産業省・内閣府「宇宙戦略基金 実施方針(経済産業省計上分)」(令和6年4月26日)、JAXA「宇宙戦略基金事業 第1期分(令和5年度補正予算計上分)経過報告について」(令和7年1月27日)

European Union HP「IOD / IOV In-Orbit Demonstration / In-Orbit Validation」

AxelGlobe事業の中長期の成長イメージ*1

中分解能衛星7機および高分解能衛星3機の投入。それらの衛星を活用した新市場創造を目指す



*1: AxelGlobe事業の中長期の成長イメージ図であり、実際とは異なる場合があります。

*2: Tips & Cueとは中分解能衛星と高分解能衛星を組み合わせで運用し、広域・高頻度の観測データから関心地点を特定・抽出し、高分解能の観測データからその地点の詳細な観測を行う協調運用のことを指します。

今後のAxelGlobe事業の成長：自社衛星コンステレーションの拡充

2027年5月期に打上げ予定の中分解能光学衛星「GRUS-3」7機について、現在は打上げ機体(フライトモデル)を製造中。
2028年5月期打上げ予定の高分解能衛星3機に加えて、高分解能衛星2機の追加製造を決定。

<GRUS-3の提供価値>

タイミング

- 日々変化する作物の生育状況、都市部の土地変化などの定点観測に役立つ
- 災害発生時など緊急撮影に柔軟に対応

GRUS-1
5機



同地点の観測頻度

2-3日に1回撮影可能

GRUS-3
7機



ほぼ同一時刻に
毎日撮影可能*1

データ量

- 解析に使うデータの選択肢が増える
- 広域の観測データをより短期間に取得可能

撮影可能面積

1日あたり75万km²

1日あたり230万km²

扱いやすさ

- 画質の向上と観測バンド追加により、より多様な解析ニーズに応える

観測バンド

青、緑、赤、レッドエッジ、
近赤外

青、緑、赤、レッドエッジ、
近赤外、コースタルブルー

*1: 北緯25度以上の地点の場合

注: GRUS-3及びGRUS-3αのミッションを搭載する衛星汎用バスシステムの開発および実証は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の下記助成事業によるものです。

「宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業(超小型衛星の汎用バスの開発・実証支援)／衛星コンステレーションのワンストップサービス実現に向けた超小型衛星実証事業」(2023～2026年度)

※2021-2022年度は経済産業省直執行事業にて実施。

次世代地球観測衛星「GRUS-3」の特徴

地上分解能は2.2mを予定。

<地上分解能2.2m画像のシミュレーション>*1



Zoom, True Color, 2.2m/px



Zoom, True Color, 2.2m/px



Zoom, True Color, 2.2m/px



*1: 当社が作成したシミュレーション画像です。

次世代地球観測衛星「GRUS-3」の特徴

GRUS-3が観測できる光の波長に、
水中を観測可能なコースタルブルーを追加



観測バンド

コースタルブルーの波長帯は水中で減衰しにくいため、沿岸域の観測に有効。

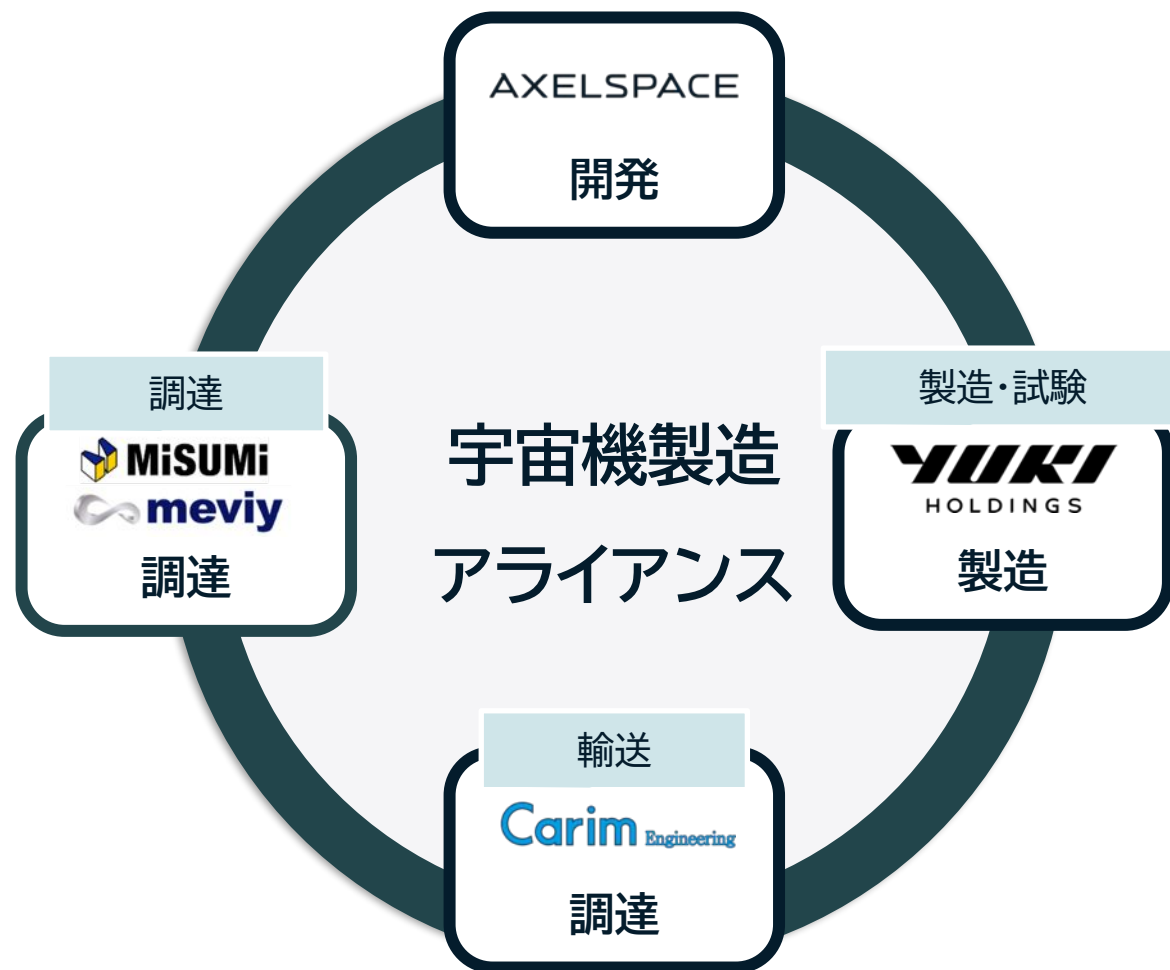
水中のCO₂を固定する藻場、水深が浅い沿岸部の海底地形の把握が期待される。



Color composite: Coastal Blue (B1) + Blue + Green + Red

衛星製造体制

スピード感を持って世界と戦うため、革新的な衛星量産を実現する「宇宙機製造アライアンス」を構築。
中分解能衛星「GRUS-3」7機の量産に取り組んでいる



宇宙機製造アライアンス

アクセルスペースと製造関連企業がそれぞれの強みを活かして迅速な衛星製造に取り組むパートナーシップ。
地球環境負荷低減にも共同で取り組む。

システム企業を頂点
とするピラミッド型
多重下請け構造としない

各企業の強みを活かした
迅速な意思決定による
製造の効率化

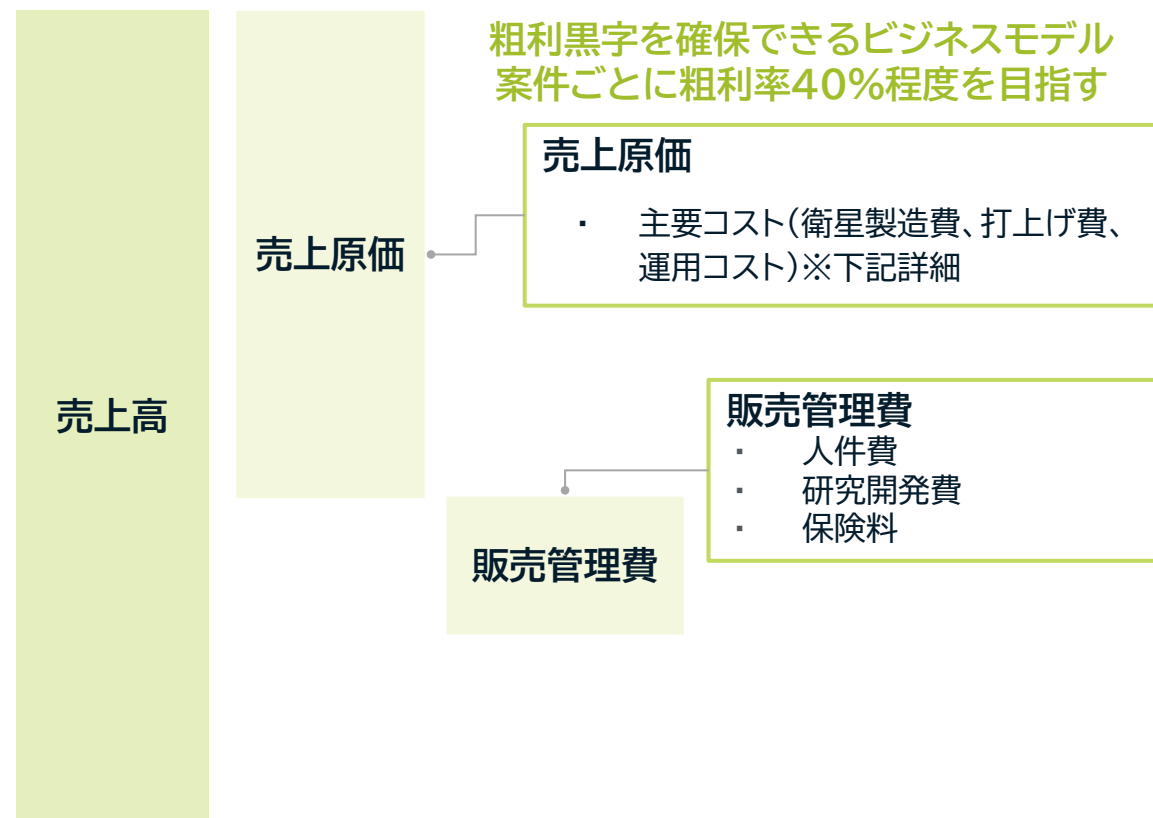
専用巨大工場による
単一製品の大量生産を
前提としない

多様な衛星を並行で
製造可能、受注の
増減にも柔軟に対応

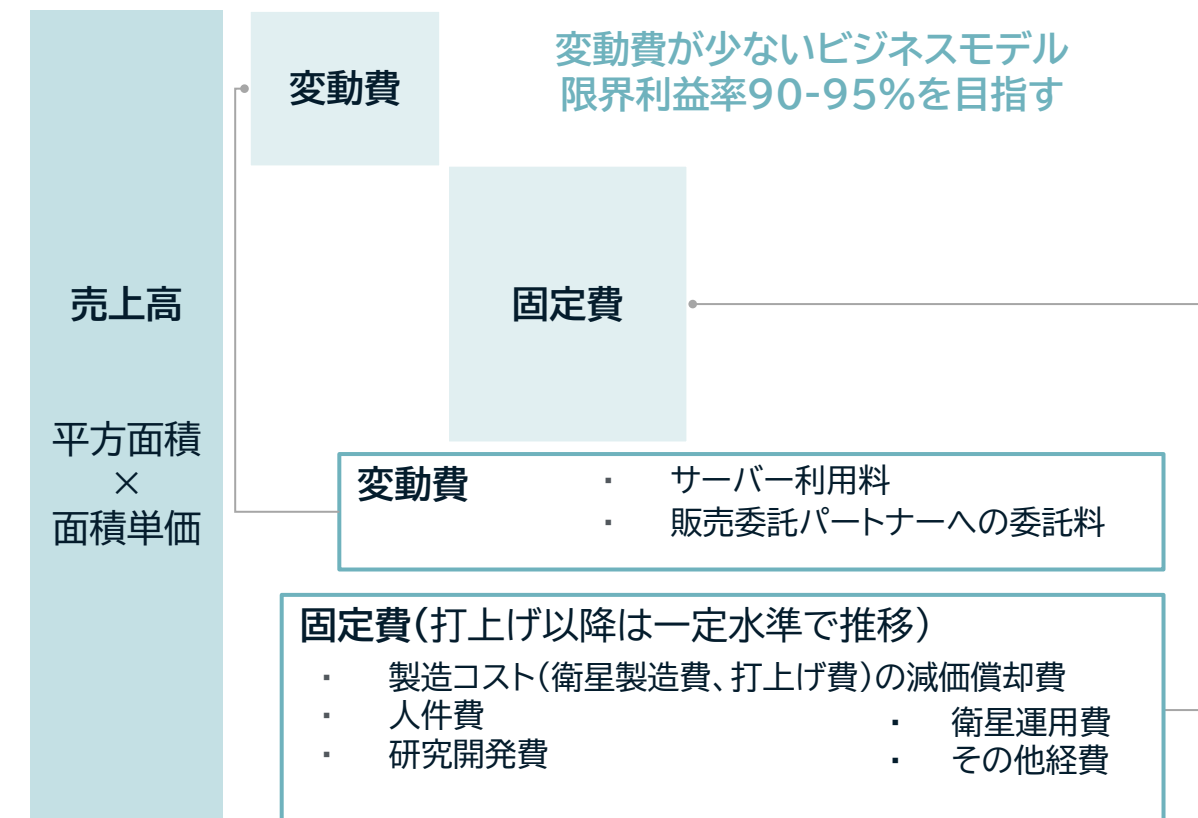
長期的なコスト構造イメージ *1

イメージであり、変更される可能性があります

AxelLiner事業



AxelGlobe事業



参考:現在の衛星1機当たり
製造コスト(概算)*2

衛星製造費*2
3.5億円

+

打上げ費用*2
3.5億円

=

約7.0億円

(ご参考)衛星運用費*3
0.5億円/年

*1: 上記は、事業が順調に継続した場合の、長期的な収益及び費用構造を示したものであり、実際の売上高、コストとは大きく異なる可能性があり、将来の業績に関する予測又は見積もりを示すものではありません。

また、上記の例示の内訳、収益及びコスト構造が将来実現することを保証するものではありません。

*2: 当社にて運用中の中分解能衛星の水準。自社商用衛星は5年で定額償却を想定しております。

*3: 地上局の利用料、データストレージ費用、運用人件費などから構成されています。

主要なリスク：ローンチサービスプロバイダー(LSP)と打上げ失敗のリスク

民間企業主体の技術革新が進展しており、ロケット打上げ技術は成熟化。現在では非常に高い確率で打上げに成功。また、ミッションには宇宙保険を付保

LSPの選定方針

- 顧客ミッション、自社ミッションにかかわらず、開発プロセス・所要期間を試算の上、**早期段階から打上げ希望日程を特定**
- LSPエージェントなどを通じ、希望日程にてローンチサービスが提供可能なプロバイダーを早期に特定
 - 日程確保が可能であればスロットを速やかにブッキング
- 開発所要期間の試算や開発運用も習熟しており、結果的に「希望日程にてブッキングができなかった」ような事態は生じていない
- 打上げ頻度やその信頼性**を考慮し、現在は**SpaceX社**の優先度が高くなっている状況
- なお、現時点で当社は合計13機の衛星打上げスロットを確保済み

利用実績があるLSPの打上げ実績

- 当社は主に**SpaceX社**の**Falcon 9**を利用
- 現時点^{*1}での**成功率は99.32%**と非常に高い
- また、顧客ミッション、自社ミッションによらず、通常は**宇宙保険**を付保
- 仮に打上げ失敗によって衛星が全損した場合においても、保険金により**開発及び打上げコストの大半はカバー可能**

Falcon 9の打上げ実績



*1: 2025年3月4日現在
出所: SpaceXNow

主要なリスク：軌道上の衛星の故障

軌道上の衛星が故障した際、衛星開発から運用までを一気通貫で手掛ける当社の知見を活かし、復旧を目指す。そのため、故障が必ずしも使用不可能に直結するものではない。復旧ノウハウは自動運用システムに反映され、今後の不具合対応に活かされる

過去の不具合対応（GRUS-1E不具合発生時）

【不具合発生】

AG事業の自社衛星5機の内1機、GRUS-1Eにて、衛星の安定的な姿勢制御に使用される3軸姿勢制御が機能せず、角運動量（回転しようとする力）が増加する不具合が発生

【顧客への影響精査】

データ提供は他衛星4機の運用で対応可能であることを確認

【復旧作業】

他の姿勢制御方法を適用することで、角運動量を削減

【復旧検証】

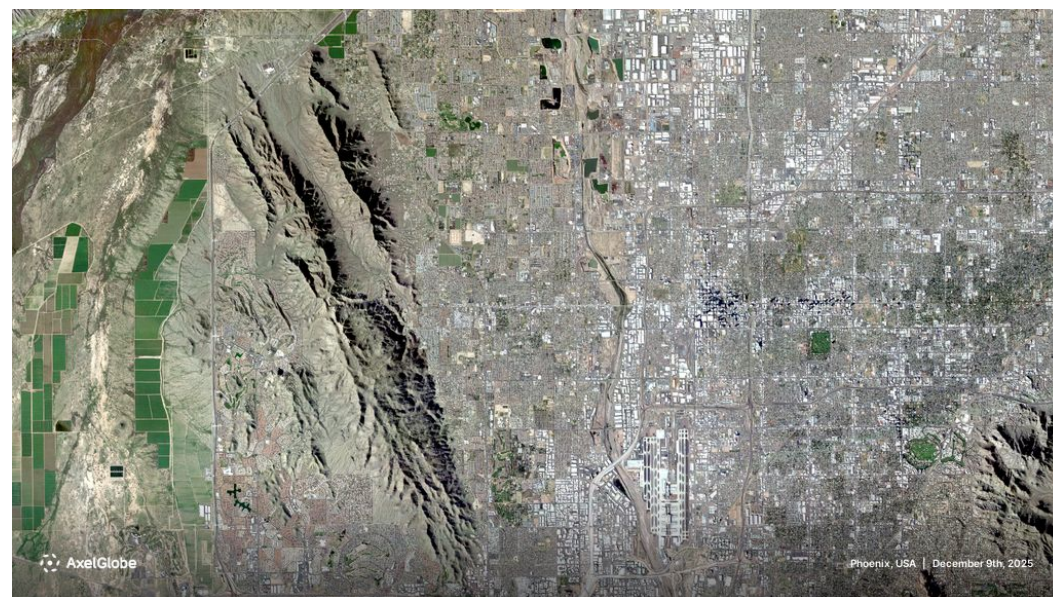
角運動量が削減された状態で、通常運用が可能かを検証
撮像・通信・画像生成が通常どおりできることを確認

【商用運用の再開】

上記の対策により、他の自社衛星4機と同じく自動運用システムでの運用を行えるよう復旧作業を完了

GRUS-1Eの商用運用再開

自動運用システムでの画像データ取得を可能とする機能を開発
2026年1月13日に商用運用の再開を発表^{*1}



GRUS-1Eで撮影した画像（アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックス）

*1: 詳細は2026年1月13日公開の「AxelGlobe事業の小型衛星「GRUS-1E」、商用運用再開のお知らせ」をご参照ください。

サステナビリティへの取り組み



衛星開発から軌道上運用、廃棄に至るまでの
衛星ライフサイクル全体でのサステナビリティに対する取り組み

- ・ Sustainability for Earth: 衛星づくりでの地球環境負荷低減
- ・ Sustainability for Space: スペースデブリなど軌道上環境の持続可能性

Design

材料選定や形状決定の際、再突入時に燃え残らないような設計に



Manufacturing

調達・製造プロセスにおいてアライアンスで共通のガイドラインを制定



Operation

軌道上で能動的な衝突回避運用を行い、情報は積極的に開示



Disposal

運用終了後に可能な限り高い成功率と短い期間で軌道外に投棄



Appendix

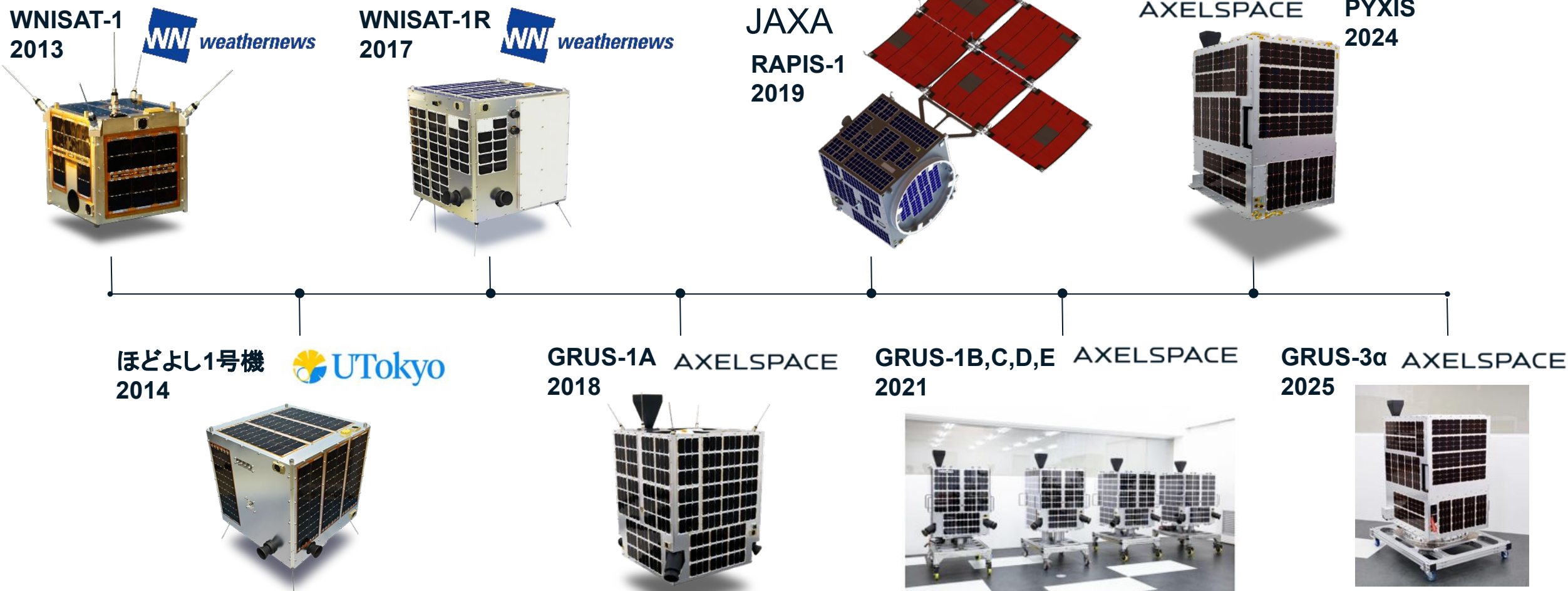
会社概要

商 号	株式会社アクセルスペースホールディングス
所在地	東京都中央区日本橋本町三丁目3番3号
創 業	2020年3月設立 ※前身となる株式会社アクセルスペースは2008年8月8日設立
資本金	連結4,067百万円(2025年9月10日現在)
発行済株式総数	66,390,000株(2025年9月10日現在)
社員数	グループ全体 182名 (2025年5月末時点)
取締役	<ul style="list-style-type: none">代表取締役(CEO) 中村 友哉取締役経営管理本部長(CFO) 折原 大吾取締役コミュニケーション推進本部長(CHRO) 濱田 牧子社外取締役 鎌田 富久社外取締役 向井 千秋社外取締役 杉山 全功



沿革

日本のスタートアップで初めてJAXAの衛星開発を受託する等、創業以来11機の小型衛星を設計製造、運用した実績を保有。
技術の蓄積と社会ニーズの変化に合わせて着実に事業を拡大



用語集^{*1}

用語	説明
バス(衛星バス)	人工衛星としての基本機能(通信、電源、姿勢制御等)に必要な機器(バス機器)と衛星の主構造の総称
ミッション	その人工衛星の目的。光学地球観測衛星の場合、光学地球観測がミッションで、望遠鏡や撮像システムがミッション機器に該当
コンポーネント	人工衛星を構成する計算機や通信機などの各種の装置
ペイロード	人工衛星に搭載される科学機器や実験装置等のミッション機器
超小型衛星(CubeSat)	質量数kg程度の小型衛星。本資料においては質量50kgまでの超小型人工衛星
小型衛星(MicroSat)	質量50kgから300kg程度までの小型衛星
JAXA	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(Japan Aerospace Exploration Agency)
NASA	アメリカ航空宇宙局(National Aeronautics and Space Administration)
ESA	欧州宇宙機関(European Space Agency)
フイージビリティ・スタディ(FS)	プロジェクトの実現可能性を事前に調査・検討すること
LEO	地球低軌道(Low Earth Orbit)
LSP	SpaceX社などのロケット打上げサービス事業を提供する企業・組織(Launch Service Provider)
地上分解能	地球観測衛星などの観測装置で対象を測定または識別できる能力。画像を構成する最小単位である画素(ピクセル)の一边が地上でどのくらいの距離に相当するかの度合い
中分解能	1mから10m程度の地上分解能
高分解能	1mから50cmの地上分解能
超高分解能	50cm未満の地上分解能
SAR	合成開口レーダー(Synthetic Aperture Radar)のこと。光学衛星は太陽光の地表からの反射を観測するのに対し、SAR衛星は自ら発射した電波の反射を観測。時間帯や天候に関わらず観測ができ、対象物の変化を抽出しやすいという特徴がある。
Tips & Cue	ある観測やセンサのデータによって得られた検知結果のヒント情報(Tip)などを引き金にして、別の衛星に合図(Cue)を出して、詳細を観測する仕組み
SSA	衛星軌道上の物体を観測し、人工衛星やスペースデブリ等の軌道周回物体を把握・認識すること(Space Situational Awareness)

*1: 本資料において、当社事業を説明するにあたって使用される用語の定義であり、必ずしも客観的な定義を示すものではなく、また必ずしも厳格な定義について共通理解のない用語も含まれます。

免責事項

本資料は、情報提供のみを目的として株式会社アクセルスペースホールディングス(以下「当社」といいます。)が作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関するご決定は利用者ご自身の判断において行われるようお願い致します。万一これら情報の利用者が何らかの損害を被ったとしても、当社および当社の情報提供者は一切責任を負いません。

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報につき、その真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」又は「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料に記載されている将来予想に関する記述と実際の結果との間に不一致をもたらす可能性のある要素については、EDINETに掲載されている当社の有価証券報告書にも記載されていますので、ご参照ください。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。

AXELSPACE